2025年度　社会福祉法人　寿泉会
特別養護老人ホーム泉園（短期入所者生活介護事業）事業　実績報告書

１．２０２５年度の事業活動について

利用者様の健康の維持・向上や活力の増進を図り、心身のゆとりを保つため、利用者様一人ひとりに応じた対応を行いました。利用者様の方々の健康管理を行い、体調不良時には早期に対応できるよう、観察項目を職員間で共有し、利用者様の体調変化を継続的に観察しました。併設する短期入所生活介護事業所との連携を図り、新規入所までの期間短縮に努めました。

２．サービス提供について

（１）機能訓練（リハビリテーション）について

理学療法士による日常動作訓練や関節可動域訓練を実施し、座位や臥位での適切なポジショニングについての助言を受け、利用者様の機能維持につなげました。

（２）日中活動（アクティビティサービス）について

施設内外で可能な限り行事の企画・実施を行い、利用者様に参加していただきました。

（３）認知症ケアについて

職員が研修等に参加して認知症への理解を深め、利用者様一人ひとりに寄り添い、安心して過ごしていただけるよう支援を行いました。

（４）口腔・栄養管理について

管理栄養士の指導のもとで栄養ケアを行い、口腔ケアは介護職員が実施し、必要に応じて歯科医による指導・治療を行いました。

（５）感染症対策について

処置時の手袋着用を徹底するとともに、職員にはうがい・手洗い・手指消毒・マスクの着用を徹底しました。

（６）事故抑止について

インシデントとアクシデントを分析し、必要な対策を講じたうえで経過観察を行い、その内容をケアプランに反映することで再発防止に努めました。

３．行事の実施について

（１）施設全体行事

「２０２５年度実施行事」のとおり開催しました。

（２）フロア行事

定期的に喫茶などを開催し、利用者様同士の会話の機会や、職員とのコミュニケーションの場を設けました。

４．会議・研修等の開催

（１）会議

運営会議、リーダー会議、入所判定会議を毎月開催しています。各委員会についても、定期的に開催しました。

（２）研修

施設内研修を実施し、職員が参加しています。また、老施協や社会福祉協議会等が主催する研修や、認知症に関する外部研修にも、希望する職員が参加しました。

（3）委員会

身体拘束廃止・虐待防止検討委員会、感染症予防対策委員会、リハビリ委員会、褥瘡対策検討委員会、サービス向上・事故防止委員会、行事企画委員会を設置し、それぞれの目的に応じた活動を実施しました。

5．コストに関する取り組みについて

現場のスタッフ間でのコスト意識の共有に力を入れ、あらゆる面で節約に取り組んでいます。特に施設内の節電・節水に努めていますが、設備の老朽化もあり、対応が困難な状況です。施設で使用する物品についても、基本的には修理を優先し、新規購入が必要な場合は、十分に精査したうえで検討しています。

6．事業の稼働について

２０２５年度は、職員不足や登録利用者数の減少により、退所対応が遅れたことから、稼働率が低下しました。また新規利用についてもロングショートからの移行が多く、全体として稼働率の大幅な低下につながりました。

7．利用実績データ　（入所事業所分）

（1）利用者実績

区分	延利用者数	平均稼働率
	26,013 人	89.08%

（2）入退所状況（再入所を含む。）

区分	入所	退所			
		死亡	入院	在宅	他施設
男	6	6	1	0	0
女	12	13	1	0	0
計	18	19	2	0	0
		21			

（3）年齢別利用者数（２０２５年度末現在）

区分	～64 歳	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 歳～	合計	平均年齢
男	1	0	1	4	4	1	5	17	82.8
女	0	0	1	7	8	13	24	55	88.0
計	1	0	2	11	12	14	29	72	86.8
%	1.4	0	2.8	15.3	16.7	19.4	40.3	100	－

（４）在籍期間別利用者数（２０２５年度末現在）

区分	～14 日	15 日~1 月	1～3 月	3～6 月	6 月~1 年	1～2 年	2 年以上	合計
男	0	0	1	2	1	3	9	16
女	2	1	1	0	6	10	33	53
計	2	1	2	2	7	13	42	69
%	2.9	1.5	2.9	2.9	10.1	18.8	60.9	≒100

（５）要介護度別利用者数（２０２５年度末現在）

区分	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	計	平均介護度
人数	0	1	14	35	19	69	4.04

（６）認知度別利用者数（２０２５年度末現在）

区分	計
Ⅲ未満	11
Ⅲ以上	58
計	69

（７）利用者様の食事形態（２０２５年度末現在）

ア）主食形態

区分	普通	軟飯	全粥	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
計	12	10	39	5	3	0	69

イ）副食形態

区分	普通	きざみ	超きざみ	ミキサー	超々キザミ	経管栄養	計
計	11	16	23	6	10	0	66

（８）利用者様の生活状況（２０２５年度末現在）

ア）食事

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
計	48	11	10	69

イ）移動

区分	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
計	4	6	27	32	69

ウ）入浴

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
計	0	7	62	69

エ）着脱

区分	自力	一部介助	全介助	計
計	4	13	52	69

オ）排泄

区分	自力	一部介助	全介助	計
計	9	20	40	69

カ）おむつ使用

区分	常時使用	夜間使用	計
計	35	15	50

（9）２０２５年度実施行事

行事実施月及び行事名等	
4月	
5月	盲学校実習
6月	
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	焼き芋パーティー
12月	忘年会
1月	新年祝賀会、
2月	
3月	いちご狩り（施設内）

８．利用実績データ　（短期入所事業所分）

（1）利用者実績

区分	延利用者数	平均稼働率
人数	3,336	45.69%

（2）年齢別利用者数（２０２５年度末現在）

区分	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	合計	平均年齢(歳)
男	0	1	0	3	2	2	0	8	79.50
女	0	1	1	3	4	3	4	16	82.68
計	0	2	1	6	6	5	4	24	81.62
%	0	8.3	4.2	25.0	25.0	20.8	16.7	100	－

（3）要介護度別延べ利用者数

区分	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	計	平均介護度
人数	0	0	110	395	1395	716	720	3336	3.4

（4）介護度別世帯状況（２０２５年度末現在）

区　　分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯

要支援１	－	－	－	－
要支援２	－	－	－	－
要介護１	0	1	0	0
要介護２	0	0	3	2
要介護３	1	3	4	1
要介護４	2	0	2	1
要介護５	0	2	1	1

（５）認知度別利用者数（２０２５年度末現在）

区分	計
Ⅲ未満	5
Ⅲ以上	19
計	24

空Ｐ

2025年度　社会福祉法人寿泉会
泉園デイサービスセンター　事業報告書

１．事業所の運営方針について

利用者様の人権と尊厳を守り、日常生活の活性化および心身機能の維持・向上を目的として、利用者様一人ひとりの残存機能に応じた自立した生活を営むための分析を行い、居宅サービス計画に基づいた個別援助計画を作成し、実施しました。

また、日々介護に携わっている介護者の身体的・精神的負担を軽減し、利用者様個々の暮らしや趣味を生かした、様々なニーズに応じた質の高いサービスの提供に努めました。

２．泉園デイサービスセンターとしての取り組み

（１）利用者様確保へ向けた取り組み

・担当居宅支援事業所、新規事業所を含め、営業訪問を行い、新規獲得に努める。
・経済的な支援が必要な方には、時短利用の幅を広げて対応する。
・職員間で協力体制を整え、送迎範囲を拡大し、受入れを可能にする。
・朝食、夕食の提供サービスを行う。(利用時間８－９時間対応)
・あん摩マッサージ指圧師による個別機能訓練を実施する。
・昼食料金等の自己負担額を７５０円とする。朝食料金４７０円、夕食料金４８０円。
　１０月１日より料金改定。

（２）職員の資質向上へ向けた取り組み

会議等で議論した内容を職員全員で共有・実施し、評価・問題点を速やかに把握し、業務内容の改善、個々の状況に応じた対応を提供しました。

（３）サービスの質の向上へ向けた取り組み

・些細な情報でも職員が共有し、利用者の状態を把握することで、一人ひとりのニーズに応じた対応に取り組めた。
・月１回の会議で、業務内容の確認、利用者対応の検討等がある際には、変更等にも臨機応変に対応しました。
・週に１回フェニックス健診クリニックのインストラクターに来ていただき、体操やレクリエーションを提供することにより、マンネリ化を防ぎ、職員が指導を受けることで、学ぶことができた。
・外出支援にて、利用者に目的地を尋ね、希望に沿った支援を行った。

３．主な行事の実施

（年間行事表）

	行事内容	備　　考
４月	錫杖湖お花見 野菜の苗植え	実施時期については桜前線を確認
５月	泉ヶ丘保育園交流会	５月２３日（金）10：00～交流会
６月	かざはや苑に紫陽花見学	６月９日（月）、１０日（火）見学
７月	慰問演奏会	バイオリン、電子ピアノの演奏
８月	夏祭り	８月２５日（月）～２７日（水）
９月	お月見 おやつ作り	雰囲気作り
10月	バーベキュー	１０月２７日（月）、２８日（火）
11月	錫杖湖紅葉巡り	１１月２４日（月）朝摘み、赤塚パビリオン
12月	忘年会 泉ヶ丘保育園クリスマス会	１２月２５日（木）、２６日（金） 忘年会、クリスマス会共、同じ日時

1月	初詣 餅つき	頭之宮四方神社参拝、おきん茶屋外食
2月	チョコレートマリアージュ（お菓子作り）	２月２０日（金）チョコレートを使ってのお菓子作り
3月	君ケ野ダムお花見	３月３０日（月）午後～お花見

（月行事）
・おやつ作り
・泉農園（随時実施）
・インストラクターによる集団体操・レクリエーション
・理髪

４．会議・研修等の開催

（１）会議
運営会議：毎月第１水曜日　　事業所の運営に関する内容
デイサービス会議：毎月第１火曜日　　業務の見直し、情報共有、行事関係、職員の意見交換
地域密着型サービス運営推進会議：奇数月第三水曜日　　地域との連携、情報交換

（２）研修
ＢＣＰ研修
自然災害・感染症　　資料を基に研修

（３）委員会
高齢者虐待防止・身体拘束委員会　（随時開催）
感染症・まん延防止　　（随時開催）

５．コストに関する取り組み

・職員１人ひとりがコストの意識を持ち、光熱費や備品、文具、生活雑貨等の消耗品の節約に取り組みました。
・物品の購入先も安価な場所に変更し、コスト削減に努めました。
・老朽化が進み、交換・修理するものも増えてきており、すべてを新規購入するのではなく、早急に必要なものをリスト化し、購入や修繕に取り組みました。

６．事業所の稼働管理

・事業所の稼働目標数値を設定し、数値管理を行いました。稼働率目標値 80%に対して 58.18%でした。
・稼働目標を下回った場合、稼働状況の分析を行い、対策を検討しました。
・新規利用者の獲得があった一方で、入院・入所・ショートステイを利用するケースが多くなり、稼働率は低迷しています。

７．利用実績　（通所介護事業所）

（１）利用者実績

		開所日数	延べ利用者数	平均利用者数	登録者数（予防）		平均介護度
					男性（予）	女性（予）	
					合計		
2025年度	４月	22 日	138 人	6.2 人/日	8(0)人	8(1)人	1.6
					17(1)人		
	５月	22 日	136 人	6.1 人/日	7(0)人	8(1)人	2.0
					16(1)人		
	６月	21 日	130 人	6.1 人/日	7(0)人	8(1)人	2.2
					16 (1) 人		
	７月	23 日	130 人	5.6 人/日	6(0)人	8(1)人	2.2
					16(1)人		
	８月	21 日	134 人	6.3 人/日	6(0)人	8(1)人	2.2
					15(1)人		
	９月	22 日	133 人	6.0 人/日	7(0)人	9(1)人	2.1
					16(1)人		
	10 月	23 日	122 人	5.3 人/日	6(0)人	9(1)人	2.2
					15(1)人		
	11 月	20 日	109 人	5.4 人/日	5(0)人	8(1)人	2.5
					13(1)人		
	12 月	22 日	112 人	5.0 人/日	4(0)人	8(1)人	2.2
					12(1)人		
	１月	20 日	92 人	4.6 人/日	6(0)人	9(1)人	1.7
					15(1)人		
	２月	20 日	106 人	5.3 人/日	6(0)人	9(1)人	1.7
					15(1)人		
	３月	22 日	128 人	5.8 人/日	6(0)人	9(1)人	2.2
					15(1)人		
	年度合計	合計 258 日	延べ 1,470 人	年間平均 5.6 人／日	74(0)人	101(12)	平均 2.1
					175(12)人		

（２）年齢別利用者数（2025 年度）

	64 歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 歳以上	合計	平均年齢(歳)
男	0	0	1	2	2	1	0	6	79.0
女	0	1	1	1	3	2	1	9	81.2
計	0	1	2	3	5	3	1	15	80.1
%	0	7	13	20	33	20	7	100	―

（３）介護度別世帯状況（2025 年度）

区　　分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援 1	1			
要支援 2	1			
要介護 1	2	2		1
要介護 2	3		1	
要介護 3	2			
要介護 4		1		
要介護 5		1		

（４）利用者の生活状況（2025 年度）

食事	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	13	1	1	15	
移動	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
	5	7	2	1	15
入浴	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	11	2	2	15	
着脱	自力	一部介助	全介助	計	
	11	2	2	15	
排泄	自力	一部介助	全介助	計	
	12	1	2	15	
おむつ使用	常時使用	夜間使用	計		
	7	0	7		

2025年度　社会福祉法人寿泉会
津中部西地域包括支援センター事業 実績報告書

１．2025 年度の事業活動について

津市からの委託業務の実施に当たって、相談頻度の高い時間に対応できるよう柔軟な勤務体制を組み、終日連絡が取れる体制、または緊急時に連絡が取れる体制、休日・夜間の転送電話や法人の併設施設との連携により対応できる体制を整え、対象者やその家族の意向に配慮しながら津市や関係機関との十分な連携の下、業務を実施した。

泉ヶ丘団地のニコニコサロン泉ヶ丘において行われている地域ささえあい通所支援事業（住民主体のサービス）とも協働し取り組むことができた。

また、法人の取り組みとして同法人内の中部東包括や理事長を交えて包括の支援困難な相談事例に対してカンファレンスを実施することで、住民の Well-Being（ウェルビーイング）を目指して取り組むことができた。

２．各支援業務について

（１）総合相談支援業務

【相談受付等について】

① 相談記録は相談票を作成し回覧するとともに相談内容に応じて適切な専門職種の担当職員を振り分け、朝礼で申し送りし職員間で情報の共有を図った。

また、担当職員の不在時も他の職員でも対応ができるように対応内容を支援経過に記録し情報の共有を行った。

②相談者等からの連絡待ちになっているケースについて、包括会議で確認の時間を設け、支援の経過を確認し終結を目指して取り組むことができた。

【認知症高齢者等及び家族への支援】

認知症地域支援推進員や保健師を中心に認知症高齢者やその家族の相談に対して支援対応を行った。また、認知症サポーター養成講座と認知症サポーターステップアップ講座を受講され「津市チームオレンジ・あしたば」に入会されたメンバーの方々，津市役所内の地域包括ケア推進室の認知症地域支援推進員，津中部北地域包括支援センターの認知症地域支援推進員と合同で認知症支援の各団体と連携しながら本格的に普及啓発活動を実施できた。

包括で個別に主催する認知症サポーター養成講座は、認知症基本法の中で学校教育に認知症啓発が位置づけられた事から包括から積極的に案内し地域の民生委員や津市社会福祉協議会と協働し津市の認知症施策としても重点目標であったキッズサポーター養成講座を地域の小学校に対し初めて実施する事ができた。

（２）権利擁護業務

【高齢者虐待への対応】

虐待が疑われる相談について、津市役所の担当課や関係機関と情報共有を図り、訪問等にて状況把握に努め、関係機関との連携の下で高齢者の生命身体の安全確保や虐待防止の為の養護

者等の支援に取り組んだ。

【成年後見制度等への対応】

相談内容に応じて、成年後見制度か日常生活自立支援事業かの対象者であるかを見極め、制度の説明や津市社会福祉協議会等の担当窓口の紹介を行った。成年後見サポートセンターや日常生活自立支援センターの担当者と連携を図り、必要に応じ同行訪問などの個別対応を行った。

【消費者被害】

７年度も高齢者世帯を狙った特殊詐欺被害の情報提供の連絡が警察等から入り、包括より居宅介護支援事業所の担当ケアマネージャー・津市役所の担当課（地域包括ケア推進室・高齢福祉課・津市消費生活センター）へ情報共有・連携を図るとともに、エリア内の在宅介護支援センターや居宅介護支援事業所の介護支援専門員，市内の地域包括支援センターに対しても注意喚起を行った。

（３）包括的・継続的ケアマネジメント業務

【包括的・継続的ケアマネジメント体制（地域ネットワーク）の構築】

①地域ケア会議は、地域ケア個別会議(支援困難)を計９回開催し、地域ケア個別会議(自立支援)は計１回開催できた。津市からの年間目標回数の 10 回は達成することができた。他にも地域情報交換会（協議体）を通して、津市総合支所、津市社協、地区社協、民生委員、保健センター、警察等と情報共有ならびに連携を行い、地域包括ケアシステムの実現に向けて取り組みを行った。地域ケア個別会議では支援困難・自立支援などの個別の相談ケースで連携を行った。

②生活・介護支援サポーター向けのフォローアップ研修については、令和６年度より生活・介護支援サポーターがセンターの業務仕様書より外れた事に伴い、津市役所の担当課（高齢福祉課）が市内包括合同参加の研修を開催し参加した。

【介護支援専門員に対する後方支援】

①介護支援専門員から支援困難ケースへの対応相談があり、自宅等への同行訪問や地域ケア個別会議(支援困難)の開催、サービス担当者会議への同席など必要な後方支援を行った。

②担当エリア内の在宅介護支援センターおよび居宅介護支援事業所の介護支援専門員を主な対象にした地域ケア個別会議(自立支援)を１回行った。

（４）介護予防ケアマネジメント関連業務

計 17 回の出前講座を実施しました。講話内容に応じたパンフレット等を活用し、包括職員だけでなく外部講師にも依頼し高齢者にも分かりやすい講座作りに努めました。また、講話だけでなく、法人内の健康運動指導士に協力をお願いし、講座の後半はフレイル・認知症予防にもなる頭と体を動かす運動を取り入れました。

３．利用実績

年間相談対応件数（２０２５年度）

内容・形態/月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	合計
介護方法等 （介護相談）	41	57	41	45	31	36	28	9	24	22	60	50	444
介護保険サービス	19	21	17	23	22	16	19	20	40	42	18	30	287
介護予防サービス	16	15	24	31	32	46	51	46	28	22	21	52	384
その他保健福祉 サービス	3	3	0	4	1	0	2	0	2	2	5	2	24
ケアマネジメント等	2	1	0	0	0	0	2	3	1	16	15	2	42
虐待・権利擁護	8	8	8	17	10	7	8	11	9	3	0	0	89
医療	4	2	3	2	3	2	1	0	3	1	0	5	26
認知症	5	2	2	1	1	0	0	0	0	7	1	1	20
その他	9	14	10	17	9	14	7	12	26	7	3	11	139
合　　計	107	123	105	140	109	121	118	101	133	122	123	153	1455
*若年性認知症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

介護予防給付担当件数（２０２５年度）

			4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
委託件数	支援１	新規	2	3	2	7	1	3	5	4	6	2	4	3	42
		継続	90	86	90	92	92	92	90	88	87	92	84	87	1070
	支援２	新規	1	1	3	4	3	4	4	2	6	1	3	2	34
		継続	78	74	78	79	75	77	84	88	85	89	92	92	991
	事業対象者	新規	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
		継続	22	18	15	17	14	14	14	14	13	12	14	13	180
合　　計			194	182	188	199	185	190	198	196	197	196	197	197	2319
直営件数	支援１	新規	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	支援２	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	5
	事業対象者	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	10
合　　計			0	2	1	1	1	2	2	2	2	1	1	1	16
												総　　数			2335

《津中部西包括》

介護予防給付委託内訳（２０２５年度）

区分	支援区分	介護予防サービス計画				
		新規	継続	合計	委託総数	新規委託事業所数
委託件数	支援１	42	1070	1112	2319	5
	支援２	34	991	1025		
	事業対象者	2	180	182		
直営件数	支援１	1	0	1		
	支援２	0	5	5		
	事業対象者	0	10	10		
合計		79	2246	2335		

2025年度　社会福祉法人寿泉会
八幡園デイサービスセンター事業　実績報告書

１．2025 年度の事業活動について

・八幡園デイサービスセンターでは、利用者様が住み慣れた地域で生活を継続していけるよう、認知症ケアの確立に向けて各職種が連携し、専門職が介入することでより良い支援につながるよう取り組みました。

・認知症を患っても、その人らしく過ごしていけるよう、事業所として「安心・安全な環境のもとで、その人らしい暮らしを着実に積み重ねる」を掲げ、利用者様の「できること」に目を向け、能力に応じて対応していくことで認知症の進行予防・意欲向上に努めました。

・地域に根付き、住民に愛され、なくてはならない存在であり続けることを大切にし、月 1 回、第一日曜日にニコニコサロンを実施し、八幡園を認知して頂ける集いの場となり、近隣の方同士が交流を図る場所であること、専門職による相談窓口を設けることで、気軽に相談しやすい関係性を築くことができました。

２．サービス提供について

（１）機能訓練（リハビリテーション）について

・利用者様が住み慣れた地域で、生活が継続できるよう住宅環境や活動状況を把握し、屋内外を問わず活動の場が広がるようなリハビリメニューを作成・実施しました。

・個別機能訓練計画書を作成する際に、各専門職が共同して利用者様のニーズ、日常生活や社会参加等における役割・心身機能の状態を踏まえ、問題点を抽出し、総合的に計画書へ反映することで最終目標を設定し、実施しました。

・３ヶ月ごとにモニタリングを実施し、利用者様の活動状況や環境変化等が生じた場合は、再評価を行い最終目標の設定やリハビリメニューを見直し、個別機能訓練計画書の修正を行いました。

・身体の痛みにより日常生活に支障をきたしている利用者様には、温熱器具を使用し疼痛の緩和を図りました。

・共通する身体状況の方を対象に小集団グループを作り、体操や作業を通じて利用者様の共通理解、意欲向上につなげ、身体機能、活動量の維持・向上を図りました。

・認知機能が低下した利用者様に対して、ご自宅では困難な作業や活動（創作活動・園芸作業等）の作業工程を一緒に確認することで円滑な動作が可能となり、利用者様の意欲向上につながりました。

・転倒、病状の変化等により歩行意欲が低下している利用者様に対して、野外への外出支援を実施することで、心身状況の改善、意欲向上、行動範囲の拡大につながりました。

（２）日中活動（アクティビティサービス）について

・身体機能の維持・向上のため、利用者一人ひとりのニーズに合ったサービスの提供を心がけ、認知症予防のため、脳トレやプリント課題を実施しました。また、難易度を多様化した資料を準備し、ご自身で選択できるように取り組みました。

・一人ひとりの生活歴や好みに合わせ、それぞれの能力に合わせた塗り絵、園芸、音楽鑑賞、調理、ゲーム等の活動を行い、個人のやりがいの向上や生活習慣の継続を重視しまし

た。
・多人数での楽しみを重視するため、音楽療法を月２回、外部ボランティアによる演奏会等を定期的に開催することで、追加利用される方や、積極的に参加を希望される方が見られました。

（３）認知症ケアについて
・各職員が認知症への理解を深め、残存機能を活かした支援サービスを提供し、利用者様に応じた個別対応を実施しました。
・利用者様が自分らしい生活を送れるよう、自主性を尊重し、一人ひとりが好きなことに自由に取り組める環境や行動パターンを踏まえ、認知症ケアにつなげられる環境づくりに取り組みました。

（４）口腔・栄養管理について
【口腔機能】
・口腔体操では、口唇、舌、頬の筋肉を鍛え、発声しやすい環境を整え、誤嚥予防および咀嚼、嚥下機能の向上に努めました。
・むせ込み、吐き出しが多く見られる利用者様に対しては、家族様や専門職、介護支援専門員と情報共有を行い、食事形態や摂取方法の見直しを行いました。
・口腔内の観察を行う中で、食後の口腔内清掃の声かけを行い、定期的な評価結果や口腔状態の変化などを家族様、介護支援専門員と共有するよう努めました。

【栄養管理】
・昼食前・おやつ前の手洗い、手指のアルコール消毒を継続して実施しました。
・旬の食材をメニューに取り入れることで、季節を感じられる食事を提供しました。
・嚥下機能について、家族様や介護支援専門員とも共有し、適切な食事提供につなげました。
・厨房職員とも情報共有を行い、食材の大きさ、薄さ、硬さ、味付けなど、食事中の様子を観察し、声かけを行い、利用者様の声を反映させることで、摂食・嚥下状況を知り、食べやすく、かつ美味しく調理しました。
・利用者様の嗜好、食事制限について把握し、提供時には確認を行うことを周知し、食事を提供しました。
・食事摂取量が十分でなかった利用者様に対しては、家族様、必要時には介護支援専門員とも情報共有を行いました。
＜課題＞
・食中毒、ノロウイルス等の感染対策を継続し、かつ管理栄養士から厨房職員への衛生教育を依頼する。
・調理後の食材は、温かい物は温かく、冷たい物は冷たく、冷たい物は冷たく可能な限り提供するため、提供時間も考慮する。
・食事形態、食事量、嗜好等の変更があった際は、変更届を記入し厨房職員に連絡する。また、提供前にも再確認を行い、互いに声を掛け合いながら確認を徹底し、間違いのないよう継続して取り組む。

（５）感染症対策について

・感染の流行時期には、職員に対して感染対策及び対処方法を、委員会や研修を通じて早期対応に取り組みました。

・感染予防に努め、自己管理を徹底することで、風邪症状等がみられる際は必要に応じて受診するとともに、マスクの着用やアルコール消毒を行いました。

・ＢＣＰ研修を通じて、内容の更新を行い、各部署長から職員へ周知を図りました。

（６）事故抑止について

・インシデント・アクシデントシートを活用し、発生状況・要因・対策を検討し、今後の対応や改善点について各職員で共有し、再発防止につなげました。

・事故内容により、再発防止のため、会議で議題として取り上げ、職員間で意見交換を行い対応策を検討しました。

３．行事の実施について

・年間行事：忘年会

・毎月行事：音楽療法（月２回）

・ボランティア：ピアノ演奏・つ保育園交流会

・クリスマスイベント

・橋南中学校交流会（吹奏楽部）

４．会議・研修等の開催

（１）会議

・デイサービス会議　毎月実施（月１回：不定期）

・事故防止検討会議（不定期）

インシデント・アクシデント事例をもとに防止策の検討および事故の再検証を実施しました。

（２）研修

・職員研修

ＢＣＰ訓練研修（シミレーション）・虐待防止研修・感染予防研修を開催

・避難訓練

年２回避難訓練を行い、地震等の災害時における対応方法を確認しました。

・入浴加算研修　（年１回：不定期）

（３）委員会

・施設内で虐待防止委員会・感染予防委員会を実施しました。

５．コストに関する取り組みについて

・物品購入について、在庫管理担当を決め、適正な購入を心がけるよう指導しました。また、継続して必要な物品や数量が適切であるか、発注前に確認を行うようにしました。

・水道光熱費の高騰により、節水・節電などコスト削減への取り組みを継続して行いました。

・施設備品の故障等を発見した際は、職員間で共有し、修理可能かどうかを検討しました。修理可能なものについては部品を購入して修理を行い、コスト削減に努めました。

６．事業の稼働について

・稼働目標：80.0％（月平均 24.0 名）目標人数 7392 名

《八幡園通所介護》

2025 年度延べ 6047 人（平均 19.5 人）に対して、稼働率は 65.4%でした。

・新規利用者獲得に努め、専門職のリハビリ強化・重度利用者の受入・送迎範囲の拡大に努め新規利用者の獲得につなげることができました。

・目標値を達成できなかった要因は、新規利用者数以上に、施設入所や入院となる利用者が増加し、退院の目途が立たず、利用中止者数が上回ったことが挙げられます。

７．利用実績

（１）利用者実績

		開所日数	延べ利用者数	平均利用者数	登録者数（予防）		平均介護度
					男性（予）	女性（予）	
					合計		
２０２５年度	4 月	26 日	491 人	18.9 人/日	21(3)人	91(14) 人	1.7
					112(17)人		
	5 月	27 日	488 人	18.1 人/日	23(3)人	90(15)人	1.7
					113(18)人		
	6 月	25 日	500 人	20.0 人/日	24(3)人	84(15)人	1.7
					108(18)人		
	7 月	27 日	525 人	19.5 人/日	26(3)人	103(15)人	1.6
					129(18)人		
	8 月	26 日	504 人	19.4 人/日	24(3)人	95(15)人	1.6
					119(18)人		
	9 月	26 日	490 人	18.8 人/日	23(3)人	91(14)人	1.6
					114(17)人		
	10 月	27 日	533 人	19.7 人/日	16(3)人	93(14)人	1,6
					109(17)人		
	11 月	25 日	475 人	19.0 人/日	16(3)人	66(13)人	1.7
					82(16)人		
	12 月	25 日	507 人	20.3 人/日	17(3)人	84(14)人	1.5
					101(17)人		
	1 月	24 日	505 人	21.0 人/日	16(3)人	77(14)人	1,6
					93(17)人		
	2 月	24 日	498 人	20.8 人/日	16(3)人	87(15)人	1,7
					103(18)人		
	3 月	26 日	531 人	20.4 人/日	18(3)人	93(15)人	1.6
					111(18)人		
	年度合計	合計 308	延べ 6047 人	年間平均 19.6 人/日	240(36)人	1054(173)	平均 1,6
					1294(209)人		

（２）年齢別利用者数（2025 年度末現在）

	～64 歳	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 歳～	合計	平均年齢(歳)
男	0	0	0	2	8	5	4	19	84.3
女	0	0	0	7	19	13	18	57	87.7
計	0	0	0	9	27	18	22	76	86.0
%	0	0%	0%	12%	35%	24%	29%	100	－

（３）介護度別世帯状況（2025 年度末現在）

区　　分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援１	1	0	0	2
要支援２	8	1	3	1
要介護１	15	11	5	5
要介護２	4	3	1	3
要介護３	1	0	1	2
要介護４	0	1	1	4
要介護５	2	0	0	1

（４）利用者の生活状況（2025 年度末現在）

食事	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	64	12	0	76	
移動	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
	19	42	6	9	76
入浴	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	24	44	8	76	
着脱	自力	一部介助	全介助	計	
	42	26	8	76	
排泄	自力	一部介助	全介助	計	
	49	18	9	76	
おむつ・リハビリパンツ等使用	常時使用	夜間のみ使用	計		
	37	－	37		

（５）年間の行事等（2025 年度）

行事実施月及び行事名等	
4 月	音楽療法（月２回　月・土）　　壁面づくり（桜・菜の花）
5 月	音楽療法（月２回　月・土）　　壁面づくり（こいのぼり・兜）橋南中学校吹奏楽部演奏会
6 月	音楽療法（月２回　月・土）　　壁面づくり（かたつむり・雨・紫陽花）ピアノ演奏
7 月	音楽療法（月２回　月・土）　　壁面づくり（七夕・海・ひまわり・朝顔）ウクレレ演奏　　ピアノ演奏
8 月	音楽療法（月２回　月・土）　　壁面づくり（ひまわり・朝顔）橋南中学校吹奏楽部演奏会
9 月	音楽療法（月２回　月・土）　　壁面づくり（桔梗）ピアノ演奏
10 月	音楽療法（月２回　月・土）　　壁面づくり（ハローウィン・紅葉）ピアノ演奏・つ保育園交流会
11 月	音楽療法（月２回　月・土）　　壁面づくり（柿・コスモス・紅葉）ピアノ演奏
12 月	音楽療法（月２回　月・土）　　忘年会・壁面づくり（クリスマスツリー・ポインセチア）　　忘年会・クリスマスイベント　　ピアノ演奏
1 月	音楽療法（月２回　月・土）　　壁面づくり（正月）
2 月	音楽療法（月２回　月・土）　　壁面づくり（節分）　ギター演奏
3 月	音楽療法（月２回　月・土）　　壁面づくり（ひな祭り）橋南中学校吹奏楽部演奏会
備考	イベントボランティアの訪問による行事（ピアノ演奏・中学校交流会・つ保育園交流会　　ウクレレ演奏・ギター演奏）

2025年度　社会福祉法人寿泉会
サテライト型八幡園グループホーム（認知症対応型共同生活介護）
事業実績報告書

１．2025 年度の事業活動について

・利用者様にとって住みなれた環境で穏やかな生活が送れる雰囲気づくりを行い、１ユニットの特性を活かし、在宅に近い環境となるよう配慮しました。

・認知症進行予防のため、日々の生活の中で季節感が感じられる行事を企画し、利用者様の自然な笑顔が見られるよう明るい雰囲気で過ごしました。

・個々のベストショットを撮るため自然な表情や笑顔、ふとした瞬間の表情を記録として写真として記録しました。定期的にフロア内の壁に行事写真を更新・掲示することで家族様には面会時にご覧いただき、表情や笑顔から日頃の様子を感じ取っていただきました。

・空調管理により季節感が感じにくくなるため、気候や天気などをみて、近所へ散歩に出ることで気分転換と同時に五感に刺激を与えるように取り組みました。また、行事を通じて季節感が感じられるよう季節の歌や壁面飾り、四季折々の企画を実施しました。

２．サービス提供について

（１）機能訓練（リハビリテーション）について

・日々の日課として、座位姿勢で実施できる運動など身体機能維持に努めました。歌唱により発声機能の維持につながり嚥下機能の維持・向上に努めました。

・天候や気候のよい時には少人数で近隣を散歩し、気分転換と機能維持訓練を行いました。（雨天の場合は施設廊下を往復、歩行訓練を実施）

（２）日中活動（アクティビティサービス）について

・余暇時間を活用し季節の塗り絵や脳トレなど短時間で達成可能なものを提供しました。繰り返し行うことで個々の能力維持、興味への観察を行い継続的に実施しました。

・唱歌や昭和歌謡を皆で歌うことで自然と発声し脳の活性化につながるよう支援しました。

（３）認知症ケアについて

・職員会議で利用者様の状況確認及び認知症進行防止に向けた取り組みをケアプランに沿って検証を行いました。

・昼夜逆転傾向の方には昼間の離床時間を増やし、会話やレク、軽作業（洗濯物たたみ、食事の盛り付け等）など役割を持ってメリハリのある生活が送れるように支援しました。

・認知症症状の進行、理解力の低下が見られる方には、丁寧に声かけをしながら一つのことを最後まで達成できるよう根気強く関わることで機能維持に努めました。

（４）口腔・栄養管理について

・朝夕の口腔ケアを促し習慣化しました。歯磨き、義歯の洗浄チェックを行うことで口腔内を清潔に保つよう取り組みました。

・訪問歯科診療との連携を図り外部受診が難しい方にも早期治療に結び付ける事ができ、家族受診負担の軽減にも繋がりました。

・食事前には口腔体操を実施し誤嚥予防・口腔機能維持に努めました。

・栄養管理については、毎月の体重測定・食事量の観察、体重減少や食事量減少傾向にある方には管理栄養士と連携を図り、食事形態の変更を検討しました。状態変化や小さな変化に気付

きがあれば看護師、管理栄養士と情報共有を図り対策・改善を検討しました。

（５）感染症対策について

・感染症については流行時期に関わらず日々手洗いやうがいを励行しました。職員間で感染経路や個々に注意することを確認し、施設内に持ち込まない、広めないことの研修会を開催し注意喚起しました。

・風邪の流行時期には早期発見・早期対応に心がけ発症時には看護師と連携を図り重症化することなく施設医への上申、早期受診など対処しました。また、二次感染の防止にも努めました。

・外部よりの訪問（面会・業者）など来園記録の記載を継続し、面会についても居室やホールを活用し少人数・短時間で行うよう協力して頂きました。

（６）事故抑止について

・インシデント・アクシデントシートを活用し事故の要因や対策について職員間で検証をしました。事故の発生、要因、対策を行い検証することで再発防止に努めました。

・転倒については、会議で検証することで「なぜ起こったのか、防ぐことができなかったのか」を話し合いました。要因や対策を検証したうえでケア方法の見直し、注意点を共有し再発防止に努めました。

・認知症の進行予防・身体機能の低下等も考慮し、危険性の明確化を図るように取り組みました。日々変化していく中で身体状態や認知症のことを家族様と情報共有し、現状把握して頂くことで危険リスクの理解を求めるように連携を図りました。

３．行事の実施について

（１）施設全体行事（デイサービス合同行事）

同施設内での交流を再開し音楽療法、外部ボランティアによる演奏会など合同での行事にも参加を行いました。

（２）ユニット行事

① 施設内行事…入浴行事「菖蒲湯・柚子湯・変わり風呂（桜・ミント風呂等）
創作活動、手芸「こいのぼり・風鈴作り」

② 外出行事… 「バラ見学・津まつり見学等」
※盆踊りは自治会より開催中止の連絡があり参加出来ず

③ 不定期開催…利用者誕生会の実施

④ ヘアーカット（月１回/GH フロアにて実施）

４．会議・研修等の開催

（１）会議

グループホーム運営会議開催　　：毎月第１水曜日に実施（年 12 回開催）

グループホーム運営推進会議開催：奇数月の第４水曜日に実施（年６回開催）

（２）研修

グループホーム運営会議項目内に研修として勉強会を行う。

不定期研修：接遇研修、看護師講師により感染予防対策、
火災・風水害・地震等災害想定の避難誘導訓練

（３）委員会（※施設系事業所及び通所事業所で委員会を設置している事業所）

グループホーム運営会議事項内にて報告及び検証

・事故防止委員会（インシデント・アクシデント）
・身体拘束適正化委員会（3ヶ月/回）
・感染予防対策委員会　（不定期開催）
・虐待防止委員会
・行事委員会　　（毎月、運営会議内で企画立案・報告）
・業務継続計画（BCP）委員会

５．コストに関する取り組みについて

・　節電対策については、こまめに不必要な箇所の節電を呼びかけ実施しました。
・　空調温度、湿度、換気に注意し利用者様が快適に過ごせるように調節に心掛けました。
・　時間外労働時間については、職員間で協力し合い極力業務時間内で実施が出来るように残業時間の減少、空いた時間を活用し事務業務にあてるなど時間の確保に努めました。

６．事業の稼働について

稼働率　98.0%を目指し運営を行いましたが結果的には94.9%と目標に至りませんでした。
待機者へのアプローチを実施するも他事業所を利用しており環境変化に不安を持たれる方が多く検討するも辞退となるケースが続いた。外部居宅事業者への営業活動はできておらず、申込件数を増やす、見学対応を増やすなど営業活動ができていなかったことも要因とします。

７．利用実績

（１）利用者実績

区分	延利用者数	計 平均稼働率
	3,118	94.9%

（２）入退所状況（再入所を含む。）

区分	入所	退所			
		死亡	入院	在宅	他施設
男	0	0	0	0	0
女	3	0	2	0	1
計	3	0	0	0	0
		3			

（３）年齢別利用者数（2025年度末現在）

区分	64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均年齢 （歳）
男	0	0	0	0	0	1	0	1	87.0歳
女	0	0	0	2	0	4	2	8	85.8歳
計	0	0	0	2	0	5	2	9	86.7歳
%	－	－	－	22.2%	－	55.6%	22.2%	100	―

（4）在籍期間別利用者数（2025 年度末現在）

区分	14 日以内	15日~1月	1～3 月	3～6 月	6月~1年	1～2 年	2 年以上	合計
男	0	0	0	0	0	1	0	1
女	0	0	0	2	1	2	3	8
計	0	0	0	2	1	3	3	9
%				22.3%	11.1%	33.3%	33.3%	100

（5）要介護度別利用者数（2025 年度末現在）

区分	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	計	平均介護度
人数	0	2	3	3	1	9	3.3

（6）認知度別利用者数（2025 年度末現在）

区分	計
Ⅲ未満	4
Ⅲ以上	5
計	9

（7）利用者の食事形態（2025 年度末現在）

ア）主食形態

区分	普通	軟飯	全粥	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
計	6	2	1	0	0	0	9

イ）副食形態

区分	普通	きざみ	超きざみ	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
計	3	5	0	1	0	0	9

（8）利用者の生活状況（2025 年度末現在）

ア）食事

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
計	8	0	1	9

イ）移動

区分	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
計	0	7	2	0	9

ウ）入浴

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
計	4	1	4	9

エ）着脱

区分	自力	一部介助	全介助	計
計	4	2	3	9

オ）排泄

区分	自力	一部介助	全介助	計
計	1	4	4	9

カ）おむつ使用（リハビリパンツ使用者）

区分	常時使用	夜間使用	計
計	8	8	16

※リハパン使用なし　1名

※巻オムツ使用者　　0名

（9）2025年度実施行事

行事実施月及び行事名等	
4月	こいのぼり作り（園内）・　季節の湯（桜湯）
5月	バラ見学（園外）　・　紫陽花作り工作（園内）　・　季節の湯（菖蒲湯）
6月	おやつ：フルーチェパフェ作り（園内）・慰問【シャンソン】（園内）・　季節の湯（ドクダミ湯）
7月	七夕行事（園内）　・　風鈴作り（園内）
8月	スイカ割り（園内）　・　季節の湯（ミント風呂）
9月	おやつ：葛まんじゅう作り（園内）　・　月見（園内）
10月	津まつり見学（外出）　・　ハロウィン（園内）
11月	運動会（園内）　・　季節の湯（紅葉風呂）
12月	クリスマス会（園内）　・　季節の湯（ゆず湯）
1月	お正月イベント（園内）・　鏡開き、ぜんざい作り（園内）
2月	節分行事（園内）　・　バレンタインイベント（園内）
3月	ひなまつり（園内）　・　ドライブ（園外）　・　ココスでお茶会（園外）
備考	

空Ｐ

2025年度　社会福祉法人　寿泉会
津中部東地域包括支援センター事業実績報告書

1．各支援業務について

（1）総合相談支援業務

・津中部東地域包括支援センターが担当しているエリアに対して、自治会を通してチラシ配布を行い、周知活動を行った。

・高齢者の相談に限らず、相談依頼があれば、自宅訪問、状況把握を行い、必要に応じて関係機関につないだ。

・支援が途切れないように、１ヶ月に１回相談一覧票を用いて、現時点での状況確認を行った。

・サービスに繋がらない相談者に対して、必要に応じて見守り訪問や電話等にて状況確認を行った。

・地域が主催しているサロンに参加して、地域との関係性の構築、困りごとの把握、包括支援センターの周知を行った。

（2）権利擁護業務

・定期的に行っている出前講座にて、資料を使いながら虐待の気づきのポイントや発見時の相談先等の理解を深め、早期発見につながるように説明を行った。

・虐待が疑われるケースについては、関係機関と連携を図りながら、状況把握を行い、迅速に対応した。

・成年後見制度については、相談者に対して制度説明を行い、成年後見サポートセンターと連携を図りながら対応を行った。後見制度利用まで至らない方に対して、日常生活自立支援事業を運営している社協と連携を図りながら対応を行った。

・出前講座にて消費者被害についての理解を深めた。エンディングノートについて地域住民に出前講座にて、消費者被害についての理解を深めた。

・消費者被害について、民生委員に対して注意喚起を行った。

・職員研修として虐待について研修を行った。

（3）包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

・地域ケア個別会議を５件開催し、より良い支援の在り方について検討を行った。

・エリア居宅介護支援事業所を参集し、ケアマネ交流会として、高齢者の運転免許について、講師を招いて講話を実施した。

・今年度は地域ケアネットワーク会議を社会福祉協議会と 3 回共同開催し、地域の関係者（医師、行政、社会福祉協議会、薬局、保健センター、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所、民生委員、地区社協、自治会長）に参加いただき、地域の買い物支援について、現状の把握と課題の抽出を行った。

・重層的な課題を抱えるケースや支援拒否、既存のサービスでは対応できない困難事例について、定期的に訪問を行い、必要に応じて関係機関との連携を図った。

・介護支援専門員の自立支援に資する実践力の向上を目的として、自立支援地域ケア個別会議を３回開催し、専門職からの意見をもとに自立支援の視点を深めた。

（4）多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築

・地域におけるネットワーク構築のために、月 1 回開催されている民生委員定例会に参加した。
・協議体が月 1 回主催している地域サロンに参加して、地域の関係者（自治会長、小学校校長・教頭、民生委員、ボランティア団体、社協）とネットワーク構築及び包括支援センターの周知を図った。
・協議体発足のため、地域のサロンに参加し、地域との関係性の構築を図った。

（5）介護予防啓発事業

・「運動」「介護予防」「医療」等について出前講座を行った。講話だけでなく脳トレや身体を使った体操等も取り入れた。
・新たな団体に対して出前講座を行った。
・出前講座で介護予防手帳の配布を行った。

（6）在宅医療・介護連携推進機関との協働

・地域の医療機関と密に連携を図り、介護と医療の連携を図った。
・在宅療養支援センター等が開催する研修会に参加し、多職種との連携を図った。
・ACP についての研修に参加し、理解を深めた。。

（7）生活支援コーディネーターによる社会基盤整備との協働

・年 7 回、生活支援コーディネーターと地域課題について話し合いを行い、地域課題の把握を行うとともに、地域ケアネットワーク会議を開催した。
・地域の協議体の会議に参加して、包括支援センターと地域とのネットワーク構築を図った。

（8）認知症への総合的な支援

・認知症サポーター養成講座を 2 回開催した。
・認知症サポーター養成講座においてチームオレンジの説明、認知症サポーターステップアップ講座の周知を行った。
・ケースに応じて、認知症初期集中支援チームと連携し、支援を行った。

（9）地域ケア会議の開催

・地域ケア会議の開催目標回数 10 回に対して、今年度は 12 回開催した。。
・地域ケア会議に参加しやすいよう、会議の目的や趣旨について説明を行った。

（１０）介護予防・日常生活支援総合事業

・要支援認定者や事業対象者に対して各種情報を提供し、サービスを選択できるよう必要な支援を行った。

（１１）介護予防ケアマネジメント業務

・委託居宅介護支援事業所に対して、給付管理、ケアプランの点検および提出書類の管理を行った。また介護支援専門員の後方支援としてサービス内容に関する問い合わせについて助言・指導を行った。
・ケースに応じて職員がケアプランを作成し、必要に応じて状況の検討を行った。

《津中部東包括》

（１２）その他

・市から提供される一人暮らし実態調査を活用しながら、自宅を訪問し、状況確認と津中部東地域包括支援センターの周知を行った。

２．重点項目

・お達者訪問については、民生委員不在エリアが多い育生地区への訪問を計画していたが、人員不足のため実施できなかった。

・周知活動については、病院や福祉センター等に包括チラシの配布および掲示を依頼し、周知を行った。

３．利用実績

介護予防給付担当件数（2025 年度）

			4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
委託件数	支援１	新規	6	7	8	10	5	9	9	4	7	7	5	8	85
		継続	166	165	163	166	166	175	172	183	177	182	189	187	2091
	支援２	新規	3	9	4	4	3	4	2	4	5	6	1	6	51
		継続	212	214	219	213	206	213	216	214	213	209	197	189	2515
事業対象者		新規	1	0	1	2	0	0	1	1	0	0	3	0	9
事業対象者		継続	14	14	15	17	19	18	16	18	19	19	19	21	209
合計			402	409	410	412	399	419	416	424	421	423	414	411	4960
直営件数	支援１	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	支援２	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
事業対象者		新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事業対象者		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計			3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
													総数		4996

介護予防給付委託内訳（2026 年 3 月 31 日現在）

区分	支援区分	介護予防サービス計画				
		新規	継続	合計	委託総数	新規委託事業所数
委託件数	支援 1	85	2091	2176	4960	12
	支援 2	51	2515	2566		
	事業対象者	9	209	218		
直営件数	支援 1	0	12	12		
	支援 2	0	24	24		
	事業対象者	0	0	0		
合計		148	4851	4999		

年間相談対応件数　（2025 年度）

内容・形態/月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	合計
介護方法等	22	27	26	27	28	33	32	27	19	35	29	33	338
介護保険サービス	7	10	8	6	3	5	8	2	1	6	6	8	70
介護予防サービス	15	17	12	10	7	7	14	12	11	20	20	11	156
保健福祉サービス	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	6
ケアマネジメン等	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
虐待・権利擁護	0	3	1	2	1	1	1	0	1	2	3	1	16
医療	0	0	0	0	1	2	0	0	1	3	1	0	8
認知症	2	0	4	6	1	4	3	3	2	9	1	2	37
その他	4	3	3	2	8	3	2	5	6	6	5	7	54
合　　計	51	62	54	53	49	55	61	49	42	81	66	64	687

2025 年度　社会福祉法人寿泉会
しおりの里地域密着型介護老人福祉施設事業　事業実績報告書

1. 2025 年度の事業活動について

・個別ケアの提供について、入居者様の思いに寄り添い、チームでの個別ケア提供に努めました。排泄記録の継続的な取り組みにより、一定のケアの質の向上が図られました。一方で、「24 時間シート」への反映については十分に進めることができませんでした。

・面会時の対応や各種連絡ツールを活用し、家族様との情報共有の機会を確保しました。

・看取りケアの充実について、医師や各職種とのカンファレンスを通じた情報共有や説明は実施しましたが、アドバンス・ケア・プランニングの継続的な取り組みには至りませんでした。

・各部門の役割明確化について、各専門職が意見を出し合い、連携した対応を図ることができました。

2. しおりの里特別養護老人ホームとしてのケア等への取り組み

(1) 介護部門

①入居者様の生活支援

・入居者様の状態観察を行い、専門職の評価を受けながらケアを提供しました。

②記録の徹底

・記録は残すことができ、内容や記載方法にばらつきがある際は、統一を図ることを心がけました。

③業務内容の問題解決のための協議

・専門職からのアドバイスを受け入れるとともに、介護職員同士で話し合う場を設けました。

④家族様への報告

・面会時に日頃の様子は報告できましたが、面会に来られない家族様への情報発信が不十分でした。

(2) 看護部門

①看医療情報の集約・発信

・入居者様の健康状態を定期的に情報収集し、必要時は生活相談員、介護支援専門員、施設医師へ報告・連携し、適切に病院受診につなげることができました。

②感染症対策の強化

・マニュアルに基づき、多職種と連携して対応しました。

③看取りケアの充実

・終末期の入居者様の対応について、施設医師と情報を共有しながら多職種と連携し行いました。施設医師と家族様との面談を通じて、今後の方針を計画できました。

(3) 機能訓練部門

①日常生活動作・機能評価の実施

・日常生活動作や身体・精神機能の評価を通じて、その人らしい生活を支援できるよう多職種と連携し、個別のニーズに対応しました。対応が困難な場合は、代替案を提案し、話し合いを進

めました。

②環境面でのサポート

・入居中も在宅生活を想定した環境づくりに配慮しながら、安全・安心な生活を支援するための環境評価と多職種でのアプローチを行いました。

③レクリエーション・アクティビティの実施

・小集団での活動は少なかったものの、個別介入を中心に実施できました。

④介助の安全性向上

・移乗時の事故予防や入居者様・職員の安心感を高めるため、介助方法や環境設定に関する評価の必要性を認識しました。

・介助時の事故防止のため、適切な介助方法・環境設定・福祉用具の選定を行ったが、物品の不足や劣化等により、最適な物品の選定が困難な場面がありました。

(4) 栄養部門

①栄養状態の改善

・入居者様ごとの必要エネルギー量を算出し、嗜好に配慮した個別の食事提供を実施しました。褥瘡の発生時には、委員会にて多職種と連携し対応しました。

②災害時の栄養管理

・災害に関する研修を通じて事前準備の重要性を再認識し、マニュアル整備や非常食の管理を継続できました。

・防災委員会にも参加し、BCP（事業継続計画）の必要性についても全体で話し合いました。

③食の楽しみの提供

・食事を日常の楽しみと感じていただけるよう、各ユニットと連携して工夫を実施しました。

・行事食や誕生日カードの更新も行い、継続的に改善を図ることができました。

(5) 相談援助・ケアマネジメント部門

①情報共有と信頼関係の強化

・入居者様および家族様との情報共有については、面会時や各種連絡手段を活用し、適宜状況の報告や意向の確認を行うことで、信頼関係の構築・強化に努めました

・事故や苦情発生時には速やかに対応し、関係職種や関係機関との情報共有を図りながら、再発防止に取り組みました。

②終末期の支援と看取りケア

・終末期対応においては、施設医師が家族様へ説明を行い、安心していただくことができました。

・入居者様及び家族様の不安や思いを傾聴し、医師による丁寧な説明とあわせて、安心して終末期を迎えられるよう支援を行いました。今後もより丁寧なコミュニケーションが重要であると認識しました。

③多職種との連携強化

・入居者様一人ひとりの思いや能力の把握に努め、できることの継続と必要な支援の提供を行いました。また、多職種と連携しながら情報共有を図り、入居者様に不利益が生じないよう適切な支援に取り組みました。

3. 行事の実施

(1) 施設全体行事

・しおりまつり 2025 を実施しました。

(2) ユニット行事

・季節感を感じていただくための行事は実施されたが、内容が主におやつ作りに偏り、当初想定した「聴く・観る」を中心とした企画は十分に実施できなかった。

・行事で撮影した写真を居室に掲示しました。一方で、全入居者様の写真を撮影するには至らず、家族様への配布対応には限りがありました。

・毎月、行事を実施することはできましたが、行事委員会からの補助をつけることができませんでした。

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

会議名	開催頻度	内容
運営会議	1 回/月	事業所の運営に関する内容
ユニット会議	1 回/月	職員の業務等に関する内容
介護 L・UL 会議	1 回/月	行事割り振り、情報共有、業務改善に関する内容
看護師会議	3 回	個別のケース、業務に関する内容
カンファレンス	2 回/月	個別ケアに関する内容
地域密着型サービス 運営推進会議	1 回/2 ヶ月	活動報告、地域連携推進に関する内容

(2) 研修

研修名	開催回数	内容
感染症対策研修	13 回	嘔吐物の処理について、細菌性食中毒について、 医福塾、BCP
身体拘束・権利擁護研修	14 回	権利擁護について、医福塾
事故防止研修	2 回	AED・マニュアルの周知、医福塾
看取り介護研修	2 回	看取り介護について ACP・看取りに関する研修会
防災研修	4 回	非常災害時の対応について、避難訓練、BCP
コンプラアンス研修	2 回	事業計画、法令及びグループ内のルール遵守について
新卒・中途採用職員 研修	3 回	法令及びグループ内のルール遵守について 高齢者虐待防止・身体拘束について 感染症対策の重要性と標準予防策について 身体介助・心構え・介護スキルについて 情報の取り方伝え方、言葉の影響力について

※上記の施設内研修以外に、施設外研修及び WEB 研修へも参加しています。

(3) 委員会

委員会名	開催回数

身体拘束・権利擁護委員会	12 回
衛生管理・感染症対策委員会	7 回
事故防止委員会	5 回
安全衛生委員会	12 回
褥瘡予防委員会	12 回

5. しおりの里における防災への取り組み

・消防署と連携した総合防災訓練は計画・実施したものの、夜間想定の避難訓練は実施できませんでした。
・防災用 DVD 視聴にて、災害についての知識を深め、意見交換を実施しました。
・地域密着型サービス運営推進会議にて、自治会長や民生委員と災害時の受け入れ体制及び施設への要望について意見交換を行いました。

6. BCP（事業継続計画）における取り組み

・事業所内で、事業継続および早期復旧を目的とした研修・訓練を実施しましたが、施設全体での実施には至りませんでした。

7. 業務遂行における取り組み

①ハラスメント対策の強化
・会議や研修で、何がハラスメントに該当するのかを伝え、周知しました。
・入居者様から性的な言動があった際、職員間で対応方法等の情報共有することができました。

②虐待防止への取り組み
・日頃の対応、言葉遣いの荒さ等より、その職員では対応が困難と判断した際には、別の職員が対応を交代し、指導を行いました。また、職員間で話し合い虐待につながらないように努めました。
・虐待を含む身体拘束について、職員間で話し合う機会が増加したが、職員間で認識の差を感じることがありました。

③5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）の実践
・不要物の仕分けや処分は実施されているが、収納の整頓が課題であり、不要書類の廃棄が十分にできませんでした。
・物品配置の明記は継続して実施できました。

④情報伝達力の向上
・連絡ノートを活用し、情報共有に努めました。しかし、伝えること・発信することまでにとどまり、その後は個人任せとなった点があり、伝達漏れが生じました。

8. コストに関する取り組み

①費用対効果の重視
・備品に不具合が生じた際は、まず修繕の可否を確認しました。
・物品の必要性を精査し、不要な支出の抑制に努めました。

②設備や備品の破損防止
・職員の乱暴な取り扱いや不注意による破損は発生しませんでした。

・破損があった物品については、原因を分析し、修繕または新規購入を実施しました。
・使用・操作方法や周辺環境を確認し、再発防止に努めました。

③消耗品等の適正管理

・オムツ業者と連携し、入居者様に応じた適切なパッド使用を継続しました。

④光熱水費の節約

・電気の消し忘れや水道の出しっぱなし防止、冷暖房の適正温度管理を継続しました。
・職員の意識向上により、光熱水費の削減につながりました。

⑤時間外勤務の削減

・業務内容と勤務時間の調整、人員配置の見直しを行いましたが、異動や退職の影響により時間外勤務は増加しました。

9. 事業所の稼働管理

・目標稼働率：98.0%に対し、年間累計稼動率：97.47%であり、目標値未達でした。

① 入所順位を月 1 回見直し、次期入居者を確定します

・月 1 回の入所順位の見直しを継続的に実施しました。
・契約手続きについては、家族様の了承を得ながら入所後に対応するなど、柔軟に運用しました。
・ユニット職員の協力のもと、退去後速やかに新規入居へつなげることができ、空床期間を最小限に抑えることができました。

②入院者の状況を適宜確認し、家族様・医療機関との連携を密に行います

・本年度は 8 名の入院者が発生し稼働に大きく影響しましたが、退院許可後は速やかに状況確認を行い、最短での再入居調整を行いました。
・空床が発生した際は、速やかに次期候補者へ連絡し、できる限り短期間での入居につなげることができました。
・短期入所事業所との連携は維持できていたものの、空床の有効活用には至りませんでした。

10. 利用実績

(1) 入居者実績

延利用者数	平均稼働率
7,066	96.78%

(2) 入退所状況（再入所を含む。）

区分	入所	退所			
		死亡	入院	在宅	他施設
男	3	3	0	0	0
女	9	8	1	0	0
計	12	11	1	0	0
		12			

(3) 年齢別入居者数（2025 年度末現在）

区分	64 歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 歳以上	合計	平均年齢（歳）

男	0	0	0	0	1	2	4	7	90.6
女	0	0	0	1	0	6	6	13	89.8
計	0	0	0	1	1	8	10	20	90.1
%	0	0	0	5	5	40	50	100	―

(4) 在籍期間別入居者数（2025 年度末現在）

区分	14 日以内	15 日~1 月	1～3 月	3～6 月	6 月~1 年	1～2 年	2 年以上	合計
男	0	0	0	3	2	0	2	7
女	0	0	3	0	1	3	6	13
計	0	0	3	3	3	3	8	20
%	0	0	15	15	15	15	40	100

(5) 要介護度別入居者数（2025 年度末現在）

区分	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	計	平均介護度
人数	0	0	3	12	5	20	4.22

(6) 認知度別入居者数（2025 年度末現在）

区分	計
Ⅲ未満	3
Ⅲ以上	17
計	20

(7) 入居者の食事形態（2025 年度末現在）

ア）主食形態

区分	普通	軟飯	全粥	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
人数	2	11	5	2	0	0	20

イ）副食形態

区分	普通	きざみ	超きざみ	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
人数	2	10	6	2	0	0	20

(8) 入居者の生活状況（2025 年度末現在）

ア）食事

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
人数	12	1	7	20

イ）移動

区分	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
人数	1	0	7	12	20

ウ）入浴

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
人数	0	3	17	20

エ）着脱

区分	自力	一部介助	全介助	計
人数	0	6	14	20

オ）排泄

区分	自力	一部介助	全介助	計
人数	0	1	19	20

カ）おむつ使用

区分	常時使用	夜間使用	計
人数	12	8	20

(9) 2025 年度実施行事

行事実施月及び行事名等	
4 月	春の陽気に散策をしよう
5 月	握り寿司パーティー
6 月	お好み焼き作り
7 月	納涼祭
8 月	夏のおやつ
9 月	焼肉祭り
10 月	おやつバイキング
11 月	さつまいもパーティー
12 月	しおりまつり 2025（忘年会）
1 月	お汁粉作り
2 月	チョコレートフォンデュを食べよう
3 月	お雛宝くじ、お花見
備考	

空Ｐ

2025年度　社会福祉法人 寿泉会
しおりの里第１短期入所生活介護事業所事業　実績報告書

１．2025 年度の事業活動について

・利用者様（クライエント）の目線に立ち、寄り添うことを意識しました。
・毎月事業計画に対し、振り返りを行うことで気づきを共有し、意識の向上を図りました。
・自身を客観的に見るための取り組みや、自身の置かれた状況を分析する習慣を促す必要があります。

２．サービス提供について

（１）機能訓練（リハビリテーション）について
・短期利用者様と長期利用者様ではニーズの違いはあるものの依頼のあった内容に対応を図りました。
・必要に応じて日常生活動作、身体機能、精神機能の評価を行い、その人らしい生活が送られるように多職種との連携を図ることができました。
・入所中において在宅での環境を取り入れ、「安心」「安全」に過ごせるよう環境面への評価を行い、多職種連携にてアプローチすることができました。

（２）日中活動（アクティビティサービス）について
・音楽を取り入れた活動を継続して実施しました。
・ユニット共有フロアの設えについて、意見を出し合い、環境の調整を行いました。
・職員の能力としても、複数エリアを受け持つことのできる職員が限られるため、自己評価・他者評価を踏まえた：評価制度が必要と感じました。

（３）認知症ケアについて
①カンファレンスを活用し、アセスメントの向上に努めました。
②リーダー・ユニットリーダーを中心に、事例検討に参加し、知識・技術の向上に努めました。
③向上した知識を実践できるよう、「共有」の意識を高めました。

（４）栄養管理、食の楽しみについて
① 栄養状態の改善
・利用者様一人ひとりの体重推移を把握し、必要エネルギー量を算出のうえ、嗜好に沿った個別の食事提供を行うことができました。
・褥瘡発生者に対しては、多職種と連携を図り対応しました。
② 災害時の栄養管理
・マニュアルの整備および非常食の管理は随時行いました。また、防災対策委員会に出席し、今後もマニュアルの内容を更新しながら継続していく予定です。
・BCP（事業継続計画）の必要性を施設全体で話し合い、災害時の栄養や食事提供をどのように行っていけるのか検討する必要があると感じました。

（５）感染症対策について
①委員会を毎月開催し、季節に応じた対応を検討・実施しました。
②感染症による施設内クラスター事例の研修を行いました。
③職員に対し感染対策の啓発を行いました。
④グループ全体で定期的に勉強会を実施し、意見を出し合いマニュアルを作成いたしました。

（6）事故抑止について

・報告用紙を更新し、インシデント・アクシデントの区分を設けて取り組みました。

・事例を用いてグループ全体で定期的に勉強会を実施し、事故に対する意識向上に努めました。

3．行事の実施について

ユニット行事

①年間行事計画に沿って実施しました。

②おやつ作りやデコレーション作業など、「触れる」「におう」「味わう」を体験していただきました。

③季節を感じられる行事を一部提供できました。

4．会議・研修等の開催

(1) 会議

会議名	開催頻度	内容
運営会議	1回/月	事業所の運営に関する内容
ユニット会議	1回/月	職員の業務等に関する内容
介護L・UL会議	1回/月	行事割り振り、情報共有、業務改善に関する内容
看護師会議	1回/月	個別のケース、業務に関する内容
カンファレンス	2回/月	個別ケアに関する内容
地域密着型サービス運営推進会議	1回/2ヶ月	活動報告、地域連携推進に関する内容

(2) 研修

研修名	開催回数	内容
感染症対策研修	24回	細菌性・ノロウイルスによる食中毒について 医福塾、BCP
身体拘束・権利擁護研修	14回	権利擁護について 医福塾
事故防止研修	2回	現場で起こりやすい事故と対策、危険予知トレーニングについて
褥瘡対策研修	3回	介護力向上について
看取り介護研修	2回	看取り介護について
防災研修	4回	非常災害時の対応について、避難訓練 BCP
コンプラアンス研修	2回	事業計画、法令及びグループ内のルール遵守について
新卒・中途採用職員研修	8回	法令及びグループ内のルール遵守について 身体介助・心構え・介護スキルについて 情報の取り方伝え方について 言葉の影響力について
生活歴作成研修	1回	生活歴の記入方法について

※上記の施設内研修以外に、施設外研修及びWEB研修へも参加しています。

(3) 委員会

委員会名	開催回数
身体拘束・権利擁護委員会	12 回（毎月）
衛生管理・感染症対策委員会	12 回（毎月）
事故防止委員会	12 回（毎月）
安全衛生委員会	12 回（毎月）
褥瘡予防委員会	12 回（毎月）

５．しおりの里における防災への取り組み

・防災用 DVD 視聴にて、災害についての知識を深め、意見交換を行いました。
・地域密着型サービス運営推進会議にて、自治会長や民生委員と災害時の受け入れ体制及び施設への要望について意見交換を行いました。
・備蓄品の保管場所が不足していることから、新たな備蓄倉庫の設置を提案しました。

６．BCP（事業継続計画）における取り組み

・事業所内で、事業継続および早期復旧を目的とした研修・訓練を実施しましたが、施設全体での実施には至りませんでした。

７．業務遂行における取り組み

①ハラスメント対策の強化
・会議や研修で、何がハラスメントに該当するのか伝え、周知しました。
②虐待の発生又はその再発を防止するための取り組み
・日頃の対応や言葉遣いの荒さ等により、その職員では対応が困難と判断した際には、別の職員が対応を交替、指導をしました。また、職員間で話し合い虐待に繋がらないように努めました。
・虐待を含む身体拘束について、職員間で話し合う機会は増加したが、職員間で認識の差を感じることがありました。
・身体拘束権利擁護委員会では、センサーマットの使用状況については協議されたが、ユニット会議等での議論は実施できませんでした。
③5S の実践（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）
・不要物の仕分けや処分は実施されているが、収納の整頓が課題です。
・物品配置の明記は継続して実施できました。
④情報伝達力の向上
・連絡ノートを活用し、情報共有に努めました。しかし、伝えること、発信することまででその後、個人任せとなってしまった点があり、伝達漏れが生じました。

８．コストに関する取り組みについて

①営繕担当者により、必要な修理、物品の購入が速やかに行えるようになりました。
②必要物品の検討については、各職員が費用対効果を意識し、購入の必要性を理解できるように、各職員の理解を得るプロセスの精度を高めました。
しかし、経年劣化以外の修理も多数発生しました。取り扱いにおいては、基本的な「物を大切に使用する」という原点に立ち返り、使用できる期間の延長に努めていきたいと考えます。
③福祉用具のメンテナンスを定期的に行うことで、福祉用具の破損減少に努めました。

④不要照明の消灯、エアコンのＯＮ/ＯＦＦに努めました。
⑤印刷について、両面の使用、無駄なカラーコピーをしないように取り組みました。
⑥時間外勤務削減のため、その原因を分析し業務の見直しが必要です。

９．事業の稼働について

①新型コロナウイルス感染症およびインフルエンザ感染症の影響で利用キャンセル等ありましたが、空床情報を発信することで、新規の依頼に繋がりました。
②今年度は、他施設への入所件数が多く、そのほとんどがロングステイの利用者様であったことから、稼働が安定しませんでした。
②職員の採用を積極的に実施していますが、職員を一定数確保することができていません。
③ライフイベント（結婚・出産・転居）に対し、計画的に体制を確保できる仕組みの構築が必要です。
④事業の運営において、適切な設備の活用および多職種による専門的評価の活用を行いました。
⑤各職種・各ユニットとの連携に課題が残りました。

１０．利用実績データ（短期入所事業分）

（１）利用者実績（2025 年度）

延利用者数	年間稼働率
11,187	76.6%

（２）年齢別利用者数（2025 年度末現在）

区分	64 歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 歳以上	合計	平均年齢(歳)
男	0	0	2	3	11	7	4	27	83.7
女	0	1	2	3	5	10	24	45	88.7
計	0	1	4	6	16	17	28	72	86.8
%	0%	1.4%	5.6%	8.3%	22.2%	23.6%	38.9%	100%	―

（３）要介護度別延べ利用者数（2025 年度）

区分	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	計	平均介護度
人数	6	8	616	1952	4694	3279	632	11,187	3.1

（４）介護度別世帯状況（2025 年度末現在）

区　分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援１	0	0	0	0
要支援２	0	0	0	0
要介護１	2	4	2	1
要介護２	3	10	3	2
要介護３	6	7	5	2
要介護４	5	7	2	4
要介護５	2	1	1	3

《しおりの里第１短期入所》

（５）認知度別利用者数（2025 年度末現在）

区分	人数
Ⅲ未満	24
Ⅲ以上	48
計	72

空Ｐ

2025年度　社会福祉法人寿泉会
しおりの里第2短期入所生活介護事業所　事業実績報告書

１．2025年度の事業活動について

・利用者様（クライエント）の目線に立ち、寄り添うことを意識しました。
・毎月事業計画に対し、振り返りを行うことで気づきを共有し、意識の向上を図りました。
・自身を客観的にみるための取り組みや、自身の置かれた状況を分析する習慣を促す必要があります。

２．サービス提供について

（１）機能訓練（リハビリテーション）について

・各職種と連携を図り、評価を実施し、環境設定を中心に介入しました。体制上の配置であるため、介護スタッフによる生活リハビリが中心となりました。
・多職種連携においては、委員会や適時評価を通じて連携が図れていました。メール機能を活用して対応を行いました。

（２）日中活動（アクティビティサービス）について

①各ユニットで季節感を味わうための準備等、食に関する行事を行いました。
②定期的に開催する体操や音楽を取り入れて実施しました。担当職員を選任し実施することで継続性が高まりました。

（３）認知症ケアについて

①グループのカンファレンスを活用し、アセスメントの向上に努めました。
②主任、ユニットリーダーを中心に事例に対し積極的に参加でき、知識・技術の向上に努めました。
③向上した知識を実践できるよう、「共有」の意識を高めました。

（４）栄養管理について

① 栄養状態の改善

・利用者様各々の体重推移を把握し必要エネルギー量を算出、嗜好に沿い、一人ひとりに合った食事の提供をすることができました。
・褥瘡発生者には、多職種と連携を図り対応しました。

② 災害時の栄養管理

・マニュアルの整備と非常食の管理は都度行いました。また、防災対策委員会に出席し、今後もマニュアルの内容を更新しながら継続していきます。
・BCP（事業継続計画）の必要性を施設全体で話し合い、災害時の栄養や食事提供をどうすれば行っていけるのか検討する必要があると感じました。

（５）感染症対策について

①委員会を毎月開催し、季節に応じた対応を検討して実施しました。
②感染症に伴う施設クラスター事例の研修を行いました。
③職員の感染対策における啓発を行いました。
④グループ全体で定期的に勉強会を実施し、意見を出し合いマニュアルを作成致しました。

（６）事故抑止について

・報告用紙を更新し、インシデントとアクシデント区分を設け取り組みました。
・事例を用いグループ全体で定期的に勉強会を実施し、事故に対する意識向上に努めました。

３．行事の実施について

・事業計画に基づいて月々の行事を実施しました。季節のおやつ作りや季節のご飯を提供し、利用者様に四季折々の食べ物を楽しんでいただけました。また、季節行事の実施やユニット内に季節飾りの装飾をし、季節を感じていただくことができました。
・暖かい時期には散歩や外出行事を実施しました。外に出て季節の草花を実際に観て、外気を浴びるなどして楽しんでいただきました。
・普段の様子や行事の際に写真を撮ることを意識して、入居者様のいろいろな表情を残すこと事が出来ました。また、誕生日に贈る色紙にも活用しました。
・人員や天候の関係で実施できなかった行事もありました。

４．会議・研修等の開催

(1) 会議

会議名	開催頻度	内容
運営会議	1回/月	事業所の運営に関する内容
ユニット会議	1回/月	職員の業務等に関する内容
介護L・UL会議	1回/月	行事割り振り、情報共有、業務改善に関する内容
看護師会議	1回/月	個別のケース、業務に関する内容
カンファレンス	4回/月	個別ケアに関する内容

(2) 研修

研修名	開催回数	内容
感染症対策研修	24回	細菌性・ノロウイルスによる食中毒について 医福塾、BCP
身体拘束・権利擁護研修	14回	権利擁護について 医福塾
事故防止研修	6回	緊急時対応、事故の発生・予防・再発予防について
褥瘡対策研修	3回	介護力向上について
看取り介護研修	2回	看取り介護について
防災研修	4回	非常災害時の対応について、避難訓練、BCP
コンプラアンス研修	2回	事業計画、法令及びグループ内のルール遵守について
新卒・中途採用職員研修	8回	法令及びグループ内のルール遵守について 身体介助・心構え・介護スキルについて 情報の取り方伝え方について 言葉の影響力について
生活歴作成研修	1回	生活歴の記入方法について

※上記の施設内研修以外に、施設外研修及びWEB研修へも参加しています。

(3) 委員会（※施設系事業所及び通所事業所で委員会を設置している事業所）

委員会名	開催回数
身体拘束・権利擁護委員会	12 回（毎月）
安全衛生委員会	12 回（毎月）
事故防止委員会	12 回（毎月）
衛生管理・感染症対策委員会	12 回（毎月）
行事・広報委員会	12 回（毎月）
褥瘡予防委員会	12 回（毎月）

５．しおりの里における防災への取り組み

・防災用 DVD 視聴にて、災害についての知識を深め、意見交換を実施しました。
・地域密着型サービス運営推進会議にて、自治会長や民生委員と災害時の受け入れ体制及び施設への要望について意見交換を実施しました。
・備蓄品の保管場所が不足していることから、新たに備蓄倉庫の設置を提案しました。

６．BCP（事業継続計画）における取り組み

・事業所内で、事業継続および早期復旧を目的とした研修・訓練を実施しましたが、施設全体での実施には至りませんでした。

７．業務遂行における取り組み

①ハラスメント対策の強化
・会議や研修で、何がハラスメントに該当するのかを伝え、周知しました。
②虐待の発生又はその再発を防止するための取り組み
・虐待防止に向けて、職員一人ひとりが「どのような行為が虐待にあたるか」を主体的に考え、意見交換を行う機会を設けることができました。
・研修を通して日常の関わりを見直し、職員の意識の向上が図られました。
③５Ｓの実践（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）
・整理整頓の 3 ステップ（分ける・捨てる・整える）を基本に、日々の業務の中で意識的に取り組むことができました。
・ケアサポーターを中心に、利用者様の生活環境を整え、維持に努めました。
④情報伝達力の向上
・社内メールの活用が定着し、必要な情報を共有できる体制が整うことができました。
・各ユニットでは伝達ノートを活用し、情報の周知・共有を図ることができました。

８．コストに関する取り組みについて

①営繕担当者により、必要な修理、物品の購入を速やかに行えるようになりました。
②必要物品の検討については、各職員が費用対効果を意識し、購入の必要性を理解できるように、各職員の理解を得るプロセスの精度を高めました。
しかし、経年劣化以外の修理も多数発生しました。取り扱いにおいては、基本的な「物を大切に使用する」という原点に立ち返り、使用できる期間の延長に努めたい。
③福祉用具のメンテナンスを定期的に行うことで、福祉用具の破損の減少に努めました。
④不要照明の消灯、エアコンのＯＮ/ＯＦＦに努めました。

⑤印刷について、両面の使用、無駄なカラーコピーをしないように取り組みました。
⑥時間外勤務削減のため、その原因を分析し業務の見直しが必要です。

９．事業の稼働について

①新型コロナウイルス感染症およびインフルエンザ感染症の影響で利用キャンセル等ありましたが、空床情報を発信することで、新規の依頼に繋がりました。
②今年度は、他施設への入所件数が多く、そのほとんどがロングステイの利用者様であったことから稼働が安定しませんでした。
③併設の特別養護老人ホームと連携し、空床の有効活用ができました。
④職員の採用を積極的に実施していますが、職員を一定数確保することができておりません。
⑤ライフイベント（結婚・出産・転居）に対し、計画的に体制を確保できる仕組みの構築が必要です。
⑥事業の運営において、適切な設備の活用及び多職種の専門的評価を活用しました。
⑦各職種・各ユニットとの連携に課題が残りました。

１０．利用実績データ（短期入所事業分）

（１）利用者実績（2025 年度）

延利用者数	年間稼働率
8,651	79.0%

（２）年齢別利用者数（2025 年度末現在）

年齢別利用者数（2025 年度末現在）

区分	64 歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 歳以上	合計	平均年齢(歳)
男	0	0	2	1	0	2	3	8	84.3
女	0	1	1	1	5	4	15	27	89.0
計	0	1	3	2	5	6	18	35	87.9
%	0%	2.9%	8.6%	5.7%	14.3%	17.1%	51.4%	100%	—

（３）要介護度別延べ利用者数（2025 年度）

区分	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	計	平均介護度
人数	47	2	937	1,068	3,662	1,917	1,018	8,651	3.1

（４）介護度別世帯状況（2025 年度末現在）

区　　分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援 1	2	1	0	0
要支援 2	0	0	0	0
要介護 1	1	1	0	5
要介護 2	3	2	1	3
要介護 3	5	3	1	2
要介護 4	1	0	0	3

要介護 5	1	0	0	0

（５）認知度別利用者数（2025 年度末現在）

区分	人数
Ⅲ未満	16
Ⅲ以上	19
計	35

空Ｐ

2025 年度　社会福祉法人寿泉会
しおりの里居宅介護支援事業　実績報告書

１．2025 年度の事業活動について

・利用者様の意向を聞き取り、希望に沿えるように提案し、利用者様が自分らしい生活を継続できるようマネジメントを行い、可能な限りその地域で心身ともに豊かな日常生活が継続できるよう支援に努めました。
・言葉遣いや身だしなみで不快感を与えないように、接遇を意識して業務に努めました。
・研修会、地域交流会、ケア会議などに積極的に参加し、地域との交流や職員の資質向上に努めることができました。
・特定事業所集中減算の適用を受けないよう公正中立的な情報の提供と選択の自由を尊重し、提出に必要な書類を整えるよう努めました。

２．居宅介護支援事業所としてサービス提供等への取り組み

（１）相談援助

利用者様や家族様、近隣住民や地域関係者からの様々な相談に対して丁寧に応対し、状況の把握を行うとともに、利用者様や相談者自身に必要なサービスや制度の紹介を行い、地域関係者や関係機関と連携し、課題の解決に向けた適切な支援を行いました。

（２）ケアマネジメント部門

利用者様、家族様に丁寧に説明を行い、了解していただいた上で適切なケアマネジメントを進めていきます。利用者様のニーズに答えられるように、アセスメントやモニタリングの技術向上に努めます。ケアマネジメントを行う上で各自が自覚を持ち、利用者様および家族様に誠意を持って対応にあたりました。

（３）苦情対応

居宅介護支援にあたり、苦情に至らぬよう各自が自覚を持ち、対応致しました。
総合窓口を設置し、苦情に至った際は次の手順で対応を行いました。

・相手の「心情を理解」してクレームをよく聴き、迅速に行動しました。
・何が問題になっているか「事実を確認」しました。
・問題の解決策や代替案などの「解決策を提示」しました。
・クレームへの「お詫びと感謝」をし、フォローによって組織でクレームを共有しました。
・真摯に対応し、ご理解いただけるよう誠心誠意、組織で対応していきました。

３．会議・研修等の開催

（１）会議

・居宅介護支援事業所会議を月１回、開催できました。
（実績報告、外部研修伝達、勉強会、その他検討事項）

（２）研修

・制度、ケアマネジメントに関する知識向上の勉強会：年４回、参加しました。
・外部研修の参加：案内に沿って定期的に参加しました。
・自己評価：ファイルチェックにて定期的に確認を行いました。
・他法人との事例検討会：年１回、全職員参加することができました。
・虐待についての研修・教育を年１回実施できました。

《しおりの里居宅》

・業務継続計画に従って必要な研修（年１回）を実施しました。
・身体的拘束対策の研修（年１回）を行いました。
（３）委員会
①虐待防止のための対策委員会（年２回）に参加しました。
②感染症の予防及びまん延の防止のための対策委員会（年/2 回）に参加しました。
③防災委員会は施設に準じて実施しました。
④身体的拘束対策委員会（年２回）は、虐待防止の対策委員会と連携しました。

４．しおりの里における防災への取り組み

① 安全で確実な避難が出来るよう、しおりの里全事業所が連携し、自然災害を想定した総合防災訓練（消火訓練、通報訓練、避難誘導訓練等）を消防署との連携を図り、年１回実施しました。
② 利用者様の心身機能、居住環境に配慮した防火・防災意識の向上に努めました。
③ 火災等の防止対策として、消防用設備等の自主点検を年１回実施できませんでした。
④ 大規模災害時における地域等（地域住民・地元企業）との協働による応援体制に向けた検討を進めることができました。

５．業務遂行における取り組みについて

①ケアマネジメントの質、向上
・毎週の会議や勉強会の実施、情報収集、外部研修の参加、地域ケア会議への参加、多職種連携等などを行うことができました。
②ハラスメント対策の強化
・利用者様に対して安定した居宅介護支援サービスを提供するため、職場及び訪問先・利用者宅における性的な言動又は優越的な関係を背景とした言動、業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより従業者の就業環境が害されることを防止できるよう努めました。
・ハラスメント防止のための指針を整備しました。
・ハラスメント防止を徹底する定期的な研修（年１回以上）を実施しました。
③虐待の発生又はその再発を防止するための取組
・虐待の防止のための対策、理解を深める委員会を開催し、定期的に検討し、共有を図りました。
・虐待の防止のための指針を整備いたしました。
・虐待担当者を決め、対応への啓発を行っていきました。
④身体的拘束等の適正化への取組
・身体的拘束等の適正化のための指針を整備いたしました。
・身体的拘束等の適正化のための担当者を決め、対応への啓発を行いました。

６．コストに関する取り組みについて

・裏紙利用や、両面印刷などの工夫で、コピー用紙の節約、経費削減に努めました。
・ICT、デジタル化、業務効率化に関する研修に参加し、ICT 技術を活用できるように努め、ペーパーレス化を図れるよう努めました。
・ガソリン、時間の節約のため、効率よく訪問することに努めました。
・業務を効率化し、時間内で業務を終えることができるように努めることができませんでした。
・話す内容を考えて電話代の削減に努めました。

７．事業所の稼働について

・地域の住民や病院等へのアピール、各包括事業所、各サービス事業所（研修等での積極的な顔つなぎ）へ声をかけ、新規利用者の確保に努めました。

・計画作成件数 37 件/名を目標とし取り組みました。（職員の雇用形態により目標件数を明確にする）

８．利用実績データ（居宅介護支援事業所分）

（１）利用者実績

区分＼月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計	人数(%)	前年比(%)
予防	支援１	7	6	5	6	3	3	3	2	2	2	2	2	43 人	4	35
	支援２	14	13	12	12	13	12	11	12	12	12	12	12	147 人	14	89
介護	介護１	34	36	36	37	40	38	36	34	36	33	36	33	429 人	42	71
	介護２	37	27	28	26	25	23	18	18	18	18	18	15	271 人	26	51
	介護３	10	5	5	4	4	3	2	2	3	3	3	3	47 人	5	28
	介護４	9	7	8	7	7	6	4	4	4	4	3	4	67 人	6	49
	介護５	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	4	27 人	3	55
合　　計		114	96	96	94	94	87	76	74	77	74	76	73	1031 人	100	54

（２）年齢別利用者数（2025 年度末現在）

区分	64 歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 歳以上	合計	平均年齢（歳）
男	1	1	2	4	6	6	6	26	78.4
女	0	0	1	4	7	16	18	46	82.7
計	1	1	3	8	13	22	24	72	81.3
%	1%	1%	4%	11%	18%	31%	33%	100%	－

（３）介護度別世帯状況（2025 年度末現在）

区　　分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援 1	2	0	0	1
要支援 2	5	4	0	2
要介護 1	12	10	4	7
要介護 2	6	5	0	4
要介護 3	2	2	0	0
要介護 4	2	1	0	1
要介護 5	0	1	0	1

（4）ご契約状況等（2025 年度）

新規契約理由		解約理由			継続中
		ADL 改善	入院	その他	
退院支援	4	0	10	0	0
認知症支援	2	0	0	0	0
看取り	0	0	0	0	0
その他	3	2	5	38	72
合計	9	2	15	38	72

（5）年間の研修・会議開催状況（2025 年度）

実施月及び研修・会議等	
4 月	居宅会議
5 月	.居宅会議
6 月	居宅会議、地域交流会、地域ネットワーク会議
7 月	居宅会議、多職種連携研修
8 月	居宅会議、
9 月	居宅会議、虐待防止に関する研修
10 月	居宅会議、
11 月	居宅会議、多職種連携研修、津在宅療養支援研修
12 月	居宅会議、
1 月	居宅会議、多職種連携研修
2 月	居宅会議、
3 月	居宅会議、事例検討会、虐待防止に関する研修

2025 年度　社会福祉法人寿泉会
しおりの里通所介護 事業報告書

１．事業所の運営方針について

イ）認知症や疾患などをお持ちの利用者様に対し、日々の体調面・精神面などの変化を把握しました。ご家族様や関連事業所などに状態を速やかに報告することで信頼関係を築き、安心してサービスを受けていただけるように取り組みました。

ロ）食事や入浴などの提供に関しては、その日の利用者様の体調や要望に合わせて対応しました。

ハ）生活機能の維持・向上のために個別機能訓練を実施し、ADL（日常生活動作）の維持・向上に努めました。

二）介護および看護業務の見直しを行い、現状に合った職員配置によって、利用者様へのサービス提供を行いました。

ホ）認知症デイサービスと連携し専門職により認知症に対する取り組みが必要と判断した方に対しては、一般デイサービスから認知症デイサービスへの移行を行いました。

２．しおりの里デイサービスセンター事業所としての取り組み

（１）利用者様確保へ向けた取り組み

・居宅介護支援事業所から依頼があった時には、利用者様の状況を専門職と確認した上で、ご利用いただけるように取り組みを行いました。

・急な追加利用などには、柔軟に対応しました。

（２）職員の資質向上へ向けた取り組み

・デイサービス会議において規律などを周知し、必要性を鑑みて個別に面談を行いました。

（３）サービスの質の向上へ向けた取り組み

・デイサービス会議において、事業の方向性や取り組みの内容について周知し、理解を得ました。

・多職種で連携して自立に向けた適切なケアを行い、チームで一貫したサービスを提供しました。

・在宅生活が張り合いのある豊かなものとして継続できるよう、精神面・身体面において援助を行いました。

３．主な行事の実施

・季節を感じ、楽しんでいただけるようなイベントの提供を意識しました。

・実物に「触れる」「嗅ぐ」「聴く」「味わう」「観る」の五感で楽しめる企画を立案し、実施しました。

４．会議・研修等の開催

（１）会議

会議名	開催頻度	内容
運営会議	毎月開催	事業所の運営に関する内容
デイサービス会議	定期開催	デイサービスの業務に関する内容
介護会議	必要時開催	デイサービスの業務に関する内容

（２）研修

研修名	開催回数	内容
施設内研修会（医福塾）	毎月開催	事故防止、感染対策に関する内容

５．コストに関する取り組み

・必要物品（特に消耗品）購入の際、あらかじめ担当者を決めて在庫状況の把握を行い、無駄のない適切な使用を心がけました。

・業務の見直しや効率化を図り、残業を極力削減するように努めました。

６．事業所の稼働管理

日々、実績をパソコンに入力して稼働状況を確認しました。それを基に「運営状況確認シート」および「月次報告シート」を作成し、月々の売上状況を把握しながら業務を行いました。

７．利用実績データ（通所事業所分）

（１）利用者実績（2025 年度）

		開所日数	延べ利用者数	平均利用者数	登録者数（予防）		平均介護度
					男性（予）	女性（予）	
					合計		
2025年度	４月	30 日	440 人	14.7 人／日	（ 18 ）人	（ 55 ）人	1.9
					（ 73 ）人		
	５月	31 日	462 人	14.9 人／日	（ 19 ）人	（ 56 ）人	1.8
					（ 75 ）人		
	６月	30 日	460 人	15.3 人／日	（ 20 ）人	（ 57 ）人	1.8
					（ 77 ）人		
	７月	31 日	482 人	15.5 人／日	（ 22 ）人	（ 57 ）人	1.8
					（ 79 ）人		
	８月	31 日	474 人	15.3 人／日	（ 24 ）人	（ 57 ）人	1.8
					（ 81 ）人		
	９月	30 日	453 人	15.1 人／日	（ 25 ）人	（ 57 ）人	1.8
					（ 82 ）人		
	10 月	31 日	471 人	15.2 人／日	（ 26 ）人	（ 57 ）人	1.8
					（ 83 ）人		
	11 月	30 日	448 人	14.9 人／日	（ 24 ）人	（ 53 ）人	1.8
					（ 77 ）人		
	12 月	29 日	452 人	15.3 人／日	（ 24 ）人	（ 53 ）人	1.8
					（ 77 ）人		
	１月	28 日	428 人	14.5 人／日	（ 18 ）人	（ 50 ）人	1.8
					（ 68 ）人		
	２月	28 日	401 人	14.3 人／日	（ 20 ）人	（ 47 ）人	1.8
					（ 67 ）人		
	３月	31 日	449 人	14.5 人／日	（ 19 ）人	（ 47 ）人	1.8
					（ 66 ）人		
	年度合計	合計 360 日	延べ 5,420 人	年間平均 15.0 人／日	（ 22 ）人	（ 54 ）人	平均 1.8
					（ 75 ）人		

（２）年齢別利用者数（2025 年度）

	64 歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 歳以上	合計	平均年齢(歳)
男	0	0	1	7	8	10	8	34	84.8
女	1	1	2	3	5	23	30	65	88.0
計	1	1	3	10	13	33	38	99	86.4
%	1.01%	1.01%	3.03%	10.1%	13.1%	33.3%	38.4%	100%	―

（３）介護度別世帯状況（2025 年度末現在）

区　　分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援１	2	1	0	0
要支援２	2	0	0	1
要介護１	13	5	0	6

要介護 2	8	4	0	7
要介護 3	3	1	0	0
要介護 4	2	2	0	1
要介護 5	0	0	0	0

（4）利用者の生活状況（2025 年度末現在）

食事	自力・見守り	一部介助	全介助	**計**	
	61	5	0	66	
移動	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	**計**
	23	34	9	0	66
入浴	自力・見守り	一部介助	全介助	**計**	
	23	37	6	66	
着脱	自力	一部介助	全介助	**計**	
	33	24	9	66	
排泄	自力	一部介助	全介助	**計**	
	41	17	8	66	
おむつ使用	常時使用	夜間使用	**計**		
	1	0	1		

（5）年間の行事等（2025 年度）

行事実施月及び行事名等		
4 月	春の行楽行事	季節感を感じて頂きながら、他者とのコミュニケーションの増加や親睦を深めていただきました。
6 月	初夏の行楽行事	紫陽花の時期に合わせて外出行事を企画しました。2 つの異なるコースを準備し選択して頂きました。
8 月	夏祭り	縁日をイメージし、盆踊りやかき氷にご参加いただきました。昔を思い出される方もみえました。
11 月	秋の行楽行事	紅葉の時期に合わせて外出行事を行いました。2 つの異なるコースを準備し、選択して頂き楽しまれました。
12 月	しおりまつり ケーキバイキング	しおりまつりＷｅｅｋ（週間）としてケーキバイキングを実施しました。和菓子のケーキが好評でした。
1 月	新年行事（お茶会）	和室にてお茶会を行いました。グループ内で茶道のできる職員が中心となって行い、楽しまれてみえました。
2 月	ゆず湯	いただいたゆずを利用し、入浴を楽しまれました。身体が温まると好評でした。
3 月	春の行楽行事	春の到来を告げる外出を楽しんでいただきました。 2 つのコースを準備し、選択していただきました。
備考	日々の取り組みとして、体操、季節の唱歌、ホワイトボードを使用した 脳トレーニングを実施しております。 外部ボランティア、慰問者の受け入れを実施しました。	

空Ｐ

2025年度　社会福祉法人寿泉会
しおりの里認知症対応型通所介護　事業報告書

１．認知症対応型通所介護事業所の運営方針について

利用者様へゆったりとした雰囲気をつくり、個々の能力に応じ出来る事、分かる事に着目しケアの在り方をその都度見直しご支援をさせて頂く事で認知症の進行予防、意欲向上に努めました。

２．認知症対応型通所介護事業所としての取り組み

（１）利用者様確保へ向けた取り組み

急な依頼や調査契約、追加利用依頼等に迅速に対応いたしました。
また、他事業所との情報交換や報告などをこまめに行うことにより、信頼関係の構築に努めました。

（２）職員の資質向上へ向けた取り組み

事故報告書（ヒヤリハット）での検証や会議等での検討、職員行動規範の周知徹底により資質向上に努めることができました。
施設内外の研修に関しましてはオンライン研修を有効に活用し受講致しました。

（３）サービスの質の向上へ向けた取り組み

認知症ケアの確立に向けて、一般型通所介護と連携し専門職の介入が必要な方を認知症デイサービスへ移行しより良い支援が出来るよう取り組みを行いました。また、他の事業所、家族様や担当介護支援専門員と情報交換および情報共有を行い、利用者様の状態変化などがあればケア内容を見直すことなど連携を図ることで個々のサービス提供に取り組むことができました。

３．主な行事の実施

・季節を感じ、楽しめるイベントを意識し提供しました。
・本物（実物）に「触れる」「におう」「聴く」「味わう」「観る」が楽しめる企画を立案実施しました。

４．会議・研修等の開催

（１）会議

会議名	開催頻度	内容
運営会議	毎月開催	事業所の運営に関する内容
デイサービス会議	定期開催	ＤＳの業務に関する内容
介護会議	必要時開催	ＤＳの業務に関する内容

（２）研修

研修名	開催回数	内容
施設内研修会（医福塾）	毎月開催	事故防止、感染対策に関する内容

５．コストに関する取り組み

・必要物品（特に消耗品）購入の際、あらかじめ担当者を決め在庫管理の把握をし、節度ある使用に心がけました。
・業務の見直し効率化を図り、残業を極力削減するように努めました。

６．事業所の稼働管理

日々において実績をパソコン入力し稼働状況を確認しました。それを基に運営状況確認シート及び月次報告シートを作成し、月々の売り上げ状況を把握しながら業務を行いました。

７．利用実績データ（通所事業所分）

（１）利用者実績

		開所日数	延べ利用者数	平均利用者数	登録者数（予防） 男性（予）	登録者数（予防） 女性（予）	登録者数（予防） 合計	平均介護度
２０２５年度	４月	２６日	186 人	7.2 人／日	（ 7 ）人	（ 21 ）人	（ 28 ）人	2.2
	５月	２７日	203 人	7.5 人／日	（ 8 ）人	（ 21 ）人	（ 29 ）人	2.3
	６月	２５日	190 人	7.6 人／日	（ 9 ）人	（ 21 ）人	（ 30 ）人	2.4
	７月	２７日	209 人	7.7 人／日	（ 9 ）人	（ 23 ）人	（ 32 ）人	2.4
	８月	２６日	223 人	8.6 人／日	（ 9 ）人	（ 24 ）人	（ 33 ）人	2.4
	９月	２６日	225 人	8.7 人／日	（ 11 ）人	（ 24 ）人	（ 35 ）人	2.5
	10 月	２７日	243 人	9.0 人／日	（ 10 ）人	（ 24 ）人	（ 34 ）人	2.5
	11 月	２５日	218 人	8.7 人／日	（ 11 ）人	（ 25 ）人	（ 36 ）人	2.5
	12 月	２５日	221 人	8.8 人／日	（ 11 ）人	（ 26 ）人	（ 37 ）人	2.5
	１月	２４日	216 人	9.0 人／日	（ 11 ）人	（ 19 ）人	（ 30 ）人	2.4
	２月	２４日	199 人	8.3 人／日	（ 11 ）人	（ 18 ）人	（ 29 ）人	2.4
	３月	２６日	223 人	8.6 人／日	（ 13 ）人	（ 20 ）人	（ 33 ）人	2.4
	年度合計	合計 308 日	2,556 人	年間平均 8.3 人／日	（ 10 ）人	（ 22 ）人	（ 32 ）人	平均 2.4

（２）年齢別利用者数（2025 年度）

	64 歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 歳以上	合計	平均年齢(歳)
男	0	0	0	1	6	9	0	16	87.4
女	0	0	1	0	1	13	14	29	88.8
計	0	0	1	1	7	22	14	45	88.1
%	0.0%	0.0%	2.2%	2.2%	15.6%	48.9%	31.1%	100%	－

（３）介護度別世帯状況（2025 年度末現在）

区　　分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援１	0	0	0	0
要支援２	0	0	0	0
要介護１	3	1	0	3
要介護２	2	5	0	6
要介護３	2	6	0	3
要介護４	0	0	0	1

要介護５	0	0	0	1

（４）利用者の生活状況（2025 年度末現在）

食事	自力・見守り	一部介助	全介助	**計**	
	25	8	0	33	
移動	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	**計**
	15	16	0	2	33
入浴	自力・見守り	一部介助	全介助	**計**	
	11	22	0	33	
着脱	自力・見守り	一部介助	全介助	**計**	
	12	21	0	33	
排泄	自力・見守り	一部介助	全介助	**計**	
	11	20	2	33	
おむつ使用	常時使用	夜間使用	**計**		
	0	0	0		

（５）年間の行事等（2025 年度）

行事実施月及び行事名等		
４月	春の行楽行事	季節感を感じて頂きながら、他者とのコミュニケーションの増加や親睦を深めて頂きました。
６月	初夏の行楽行事	紫陽花の時期に合わせて外出行事を企画しました。２つの異なるコースを準備し選択して頂きました。
８月	夏祭り	縁日をイメージし、盆踊りやかき氷に御参加頂きました。昔を思い出される方もみえました。
11 月	秋の行楽行事	紅葉の時期に合わせて外出行事を行いました。２つの異なるコースを準備し選択して頂き楽しまれました。
12 月	しおりまつり ケーキバイキング	しおりまつりＷｅｅｋ（週間）としてケーキバイキングを実施しました。和菓子のケーキが好評でした。
１月	新年行事（お茶会）	和室にてお茶会を行いました。グループ内で茶道のできる職員が中心に行い楽しまれてみえました。
２月	ゆず湯	頂いた、ゆずを利用し入浴を楽しまれました。身体が温まると好評でした。
３月	春の行楽行事	春の到来を告げる外出を楽しんで頂きました。 ２つのコースを準備し選択して頂きました。
備考	日々の取り組みとして、体操、季節の歌唱、ホワイトボードを使用した脳トレを毎日実施させて頂いております。 認知症対応型デイサービスでは、利用者に作業療法士がメニューを作成し認知症に特化したリハビリを行っております。 （調理訓練、園芸、手芸、脳トレ等） 外部ボランティア、慰問者の受け入れを実施しました。	

空Ｐ

2025 年度　社会福祉法人寿泉会
しおりの里広域型特別養護老人ホーム　事業実績報告書

1. 2025 年度の事業活動について

・個別ケアの提供について、入居者様の思いに寄り添い、チームでの個別ケア提供に努めました。排泄記録の継続的な取り組みにより、一定のケアの質の向上が図られました。一方で、「24 時間シート」への反映については、十分に進めることができませんでした。

・面会時の対応や各種連絡ツールを活用し、家族様との情報共有の機会を確保しました。

・看取りケアの充実について、医師や各職種とのカンファレンスを通じて情報共有や説明を実施しましたが、アドバンスケアプランニングの継続的な取り組みには至りませんでした。

・各部門の役割明確化について、各専門職が意見を出し合い、連携した対応を図ることができました。

2. しおりの里広域型特別養護老人ホームとしてのケア等への取り組み

(1) 介護部門

①入居者様一人ひとりの能力に応じた介護サービスの提供

・入居者様の状態に変化があった際は、社内メールを活用して他職種への迅速な情報共有を行いました。専門職への評価依頼の仕組みは定着しており、個人の判断があった際にも是正できる体制となっています。

・排泄データを年 2 回収集・分析し、それに基づいたパッドの適切な選定を実施しました。

②情報共有の強化

・社内メールの活用により、多職種間での円滑な連携を図ることができました。

③介護技術の向上

・重度化や看取りへの対応が多く発生しましたが、各専門職との連携によりケアの統一が図れました。

・人員が不足している場面が多く、ユニットをまたいだコミュニケーションの場が減少しているため、サービスやスキルにおいて、ユニットごとの一定のばらつきがやむを得ず生じる状況となりました。

(2) 看護部門

①個別性を尊重した看護とチームワークの強化

・入居者様一人ひとりの状態や個性の把握に努め、多職種との情報共有を行いながら連携した看護の提供に取り組みました。

②業務改善とレベルアップの推進

・看護会議等を通じて業務の見直しや改善点の共有を行い、継続的な業務改善および看護の質の向上に努めました。

(3) 機能訓練部門

①入居者様の状態に応じた評価の実施

・入居者様全員の状態を把握し、必要に応じて日常生活動作や身体・精神機能の評価を実施しました。

・嚥下機能や精神・認知機能に関しては、多職種との連携のもとで対応しました。

②自立支援に向けたリハビリと環境調整

・個別リハビリや生活環境の調整を行い、日常生活動作の維持・継続に努めました。

③希望する生活の実現に向けた多職種連携の強化

・入居者様が望む生活の実現に向け、カンファレンスや専門職チームなどを通じて、他職種との連携を強化しました。

(4) 栄養部門

①栄養状態の改善

・入居者様ごとの必要エネルギー量を算出し、嗜好に配慮した個別の食事提供を実施しました。褥瘡の発生時には、多職種と連携して対応を行いました。

②災害時の栄養管理

・災害に関する研修を通じて事前準備の重要性を再認識し、マニュアル整備や非常食の管理を継続できました。

③食の楽しみの提供

・食事を日常の楽しみと感じてもらえるよう、各ユニットと連携して工夫を行いました。

・行事食や誕生日カードの更新も行い、継続的に改善を図ることができました。

(5) 相談援助・ケアマネジメント部門

①入居者様・家族様との信頼関係の強化と情報共有の徹底

・プラン見直し時期や各種計画書について定期的に説明を行い、入居者様・家族様との継続的な情報共有に努めました。

・医師や医療機関と連携し、カンファレンスや専門職ミーティングの内容をプランへ反映しました。

・苦情や要望についても速やかに対応し、関係職種と共有しながら個別性に応じた支援の検討を行いました。

・終末期においては、看取りケアプランを通じてデスエデュケーションを継続的に実施し、入居者様、家族様、職員が受け入れられる支援に努めました。

②多職種連携の強化と支援の質向上

・入居者様の「できること」「わかること」に着目し、サービス担当者会議を通じて多職種で情報共有を行い、支援プランへ反映しました。

・口腔機能・栄養計画・ケアプランの課題分析において、職種ごとに着目点の違いから方向性にばらつきが見られるケースもあったため、情報の整理と方向性の統一を図り、修正を行いました。

3. 行事の実施

(1) 施設全体行事

・しおりまつり 2025 を実施しました。

(2) ユニット行事

・各ユニットにおいて毎月の行事計画を立て、クリスマスやひな祭りなどの季節行事では飾りつけにも力を入れ、入居者様に季節感を楽しんでいただくことができました。

・職員も一緒に参加し、ユニットごとの特色を活かした工夫ある行事を企画・実施することができました。
・人員体制の都合により、毎月の行事を実施できないユニットもありました。

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

会議名	開催頻度	内容
運営会議	1回/月	事業所の運営に関する内容
ユニット会議	1回/月	職員の業務等に関する内容
介護L・UL会議	1回/月	行事割り振り、情報共有、業務改善に関する内容
看護師会議	3回	個別のケース、業務に関する内容
カンファレンス	4回/月	個別ケアに関する内容

(2) 研修

研修名	開催回数	内容
感染症対策研修	13回	嘔吐物の処理について、細菌性食中毒について、 医福塾、BCP
身体拘束・権利擁護研修	3回	医福塾
事故防止研修	7回	AED・マニュアルの周知、医福塾
看取り介護研修	2回	看取り介護について ACP・看取りに関する研修会
防災研修	4回	非常災害時の対応について、避難訓練、BCP
コンプラアンス研修	2回	事業計画､法令及びグループ内のルール遵守について
新卒・中途採用職員研修	8回	法令及びグループ内のルール遵守について 高齢者虐待防止・身体拘束について 感染症対策の重要性と標準予防策について 身体介助・心構え・介護スキルについて 情報の取り方伝え方、言葉の影響力について

※上記の施設内研修以外に、施設外研修及びWEB研修へも参加しています。

(3) 委員会（※施設系事業所及び通所事業所で委員会を設置している事業所）

委員会名	開催回数
身体拘束・権利擁護委員会	7回
安全衛生委員会	12回
事故防止委員会	5回
衛生管理・感染症対策委員会	7回
行事・広報委員会	9回
褥瘡予防委員会	12回

5. しおりの里における防災への取り組み

・机上訓練を実施し、避難経路や消防設備の位置、使用方法についての再確認を行い、職員間で防災意識の共有を図りました。
・毎月１回の自主点検を実施し、防災設備周辺の整理整頓や、緊急時の取り出しやすさの確保に努めました。
・消防署と連携した総合防災訓練は計画、実施したものの、夜間想定の避難訓練は実施できませんでした。

6. BCP（事業継続計画）における取り組み

・事業継続および早期復旧を目的とした研修・訓練については、事業所内で実施することができました。一方で、施設全体での実施には至りませんでした。

7. 業務遂行における取り組み

①ハラスメント対策の強化
・会議や研修で、何がハラスメントに該当するのかを伝え、周知しました。
②虐待防止への取り組み
・虐待防止に向けて、職員一人ひとりが「どのような行為が虐待にあたるか」を主体的に考え、意見交換を行う機会を設けることができました。
・研修を通して日常の関わりを見直し、職員の意識の向上が図られました。
③５S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）の実践
・整理整頓の３ステップ（分ける・捨てる・整える）を基本に、日々の業務の中で意識的に取り組むことができました。
・ケアサポーターを中心に、入居者様の生活環境を整え、維持に努めました。
④情報伝達力の向上
・社内メールの活用が定着しており、必要な情報を共有できました。
・各ユニットでは伝達ノートを活用し、情報の周知・共有を図ることができました。

8. コストに関する取り組み

① 費用対効果の重視
・備品に不具合が生じた際は、まず修繕の可否を確認しました。
・物品の必要性を精査し、不要な支出の抑制に努めました。
② 設備や備品の破損防止
・職員の乱暴な取扱いや不注意による破損は発生しませんでした。
・破損があった物品については、原因を分析し、修繕または新規購入を実施しました。
・使用方法や操作方法、周辺環境を確認し、再発防止に努めました。
③ 消耗品の適正管理
・オムツ業者と連携し、入居者様の状態に応じた適切なパッド使用を継続しました。
④光熱水費の節約
・電気の消し忘れや水道の出しっぱなし防止、冷暖房の適正温度管理を継続しました。
・職員の意識向上により、光熱水費の削減につながりました。
⑤時間外勤務の削減
・入居者様の状態を含め、業務に合わせた勤務時間に変更し、サービス提供出来る人員配置に努めました。

9. 事業所の稼働管理

・目標稼働率：98%に対し、年間累計稼働率：97.51%であり、目標未達でした。

① 入所順位の見直しと円滑な入居調整

・月 1 回の入所順位見直しを継続的に実施し、次期入居者様の選定および待機上位者への意向確認を行い、一定の稼働率維持に努めました。

・外部調査の実施が計画通りに進まず、受け入れ時期の調整に影響が見られました。調査の優先順位付けやスケジュール管理が不十分であったことから、空床期間の短縮に向けた改善が必要であると認識しました。

② 入院者の状況確認と迅速な受け入れ調整

・入院者様の状況確認を継続し、家族様・医療機関との連携を図り、退院許可後は速やかに受け入れ調整を行いました。

・短期入所事業所との連携は維持できていましたが、空室利用には至りませんでした。

10. 利用実績

(1) 入居者実績

区分	延利用者数計 平均稼働率
延利用者数	17875
年間稼働率	97.95

(2) 入退所状況（再入所を含む。）

区分	入所	退所			
		死亡	入院	在宅	他施設
男	7	2	1	0	1
女	11	8	2	0	0
計	18	10	3	0	1
		14			

(3) 年齢別入居者数（2025 年度末現在）

区分	64 歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 歳以上	合計	平均年齢（歳）
男	1	0	0	1	3	4	5	14	86.8
女	0	1	0	2	4	12	17	36	88.3
計	1	1	0	3	7	16	22	50	88
%	2	2	0	6	14	32	44	100	―

(4) 在籍期間別入居者数（2025 年度末現在）

区分	14 日以内	15日~1月	1～3 月	3～6 月	6月~1年	1～2 年	2 年以上	合計
男	0	0	0	1	4	5	4	14
女	2	0	0	4	4	11	15	36
計	2	0	0	5	8	16	19	50

%	4	0	0	10	16	32	38	100

(5) 要介護度別入居者数（2025 年度末現在）

区分	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	計	平均介護度
人数	0	0	2	23	25	50	4.44

(6) 認知度別入居者数（2025 年度末現在）

区分	計
Ⅲ未満	4
Ⅲ以上	46
計	50

(7) 入居者の食事形態（2025 年度末現在）

ア）主食形態

区分	普通	軟飯	全粥	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
人数	8	15	15	11	0	1	50

イ）副食形態

区分	普通	きざみ	超きざみ	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
人数	8	15	13	13	0	1	50

(8) 入居者の生活状況（2025 年度末現在）

ア）食事

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
人数	27	6	17	50

イ）移動

区分	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
人数	2	2	12	34	50

ウ）入浴

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
人数	0	9	41	50

エ）着脱

区分	自力	一部介助	全介助	計
人数	4	8	38	50

オ）排泄

区分	自力	一部介助	全介助	計
人数	4	4	42	50

カ）おむつ使用

区分	常時使用	夜間使用	計
人数	22	22	44

(9) 2025 年度実施行事

行事実施月及び行事名等	
4 月	散歩
5 月	プリン作り、柏餅を作って食べよう
6 月	散歩、足湯
7 月	足湯
8 月	溶けないアイスクリーム作り、かき氷作り
9 月	散歩、残暑申し上げます（かき氷）
10 月	スイートポテト作り、旬の食材で季節を感じよう
11 月	豚汁作り、鍋パーティー
12 月	しおりまつり 2025in 広域
1 月	フレンチトースト作り、新年を楽しもう、握りたてお寿司会
2 月	季節のおやつ作り、おやつパーティー
3 月	暖かい日に散歩しよう
備考	

空Ｐ

2025年度　社会福祉法人寿泉会
万葉の里老健事業　実績報告書

１．2025 年度の事業活動について

2025 年度の稼働は、93.02％で目標を達成することができませんでした。新規契約人数は 37 件ありましたが、新型コロナウイルスによる影響や入院・退所者が出た後のフォローを早期に対応できず、稼働率の向上につなげることができませんでした。引き続き、居宅介護支援事業所や医療機関への営業活動および入退所時期の管理を行い、稼働率を維持できるよう待機者を確保するとともに、退所時期と入所時期を調整できる体制を作れるようにしていきます。

２．サービス提供について

（１）機能訓練（リハビリテーション）について

利用者のニーズに合わせ、在宅や施設で生活できることを目標に、利用者の心身機能・希望に沿ったリハビリプログラムを作成しております。日常生活が過ごしやすいよう環境調整を行っております。また、利用者の心身機能を評価し、リハビリ実施計画書へ反映させるとともに、家族への情報提供も行いました。

（２）日中活動（アクティビティサービス）について

利用者の心身の状況や本人の意向を尊重しながら、季節を感じながら楽しめる企画を立案し、日中活動や余暇活動を提供しました。

（３）認知症ケアについて

認知症の理解を深め、行動観察から利用者の「できること、わかること」に着目し、行動範囲の拡大を図るとともに、ニーズを汲み取りサービスに反映し、適切なサービス提供に努めました。

（４）口腔・栄養管理について

利用者の嚥下評価を行い、個々に応じた食事形態を提供しております。また、食に関する行事等を行い食欲増進につながる環境整備を行っています。褥瘡がある利用者には褥瘡委員会と協力・連携し、栄養補助食品の提供も行っています。便秘の改善および対策として水分補給の促しや食物繊維の強化、栄養補助食品の提供を行いました。

（５）感染症対策について

感染衛生管理委員会を３カ月に１回開催しており、委員会主催で事業所内にて感染症に係る取り決めの確認や研修を実施しました。

（６）事故抑止について

インシデント・アクシデント報告の内容を整理して、チームで対策および防止策を検討し、また、事故防止委員会でも事故を未然に防ぐために勉強会を開催しました。

３．行事の実施について

（1）施設全体行事

月	行事名
9月	秋祭り

（2）ユニット行事

月	行事名
4月	花見
5月	端午の節句
6月	七夕飾り作り
7月	七夕
9月	敬老会
１０月	運動会
１２月	忘年会
1月	
2月	節分
3月	ひなまつり

サークル活動（月２回）実施。

４．会議・研修等の開催

（1）会議

①運営会議（月１回）：管理者及び専門職の代表者の施設運営に関する会議
②ＣＳ・ＥＳ会議（月１回）：顧客満足・従業員満足に関する会議
③サービス担当者会議（月１回）：施設内での情報共有及び検討
④介護Ｌ・ＵＬ会議（月１回）：ユニットリーダー職以上の介護内容に関する会議
⑤介護会議（月１回）：事業所内の介護内容に関する会議
⑥看護会議（月１回）：事業所内の看護内容に関する会議
⑦入所前カンファレンス（随時）：各部署代表者による入所後のケアを確定
⑧インシデント・アクシデントカンファレンス（随時）：各チームメンバーでインシデント・アクシデントについて検証、対応策の個別検討

（2）研修

①感染症に係る研修（年２回）：感染症予防及びまん延防止のため
②コンプライアンス研修（年１回）：法令遵守のため
③事故防止に関する研修（年２回）：事故防止に向けての知識等の取得
④権利擁護（身体拘束・人権）に関する研修（年１回）：権利擁護に関する知識等の取得
その他、生涯研修等、外部研修への参加も行っています。

（3）委員会（※施設系事業所及び通所事業所で委員会を設置している事業所）

①身体拘束委員会（月１回）：身体拘束に関わる内容の検討
②安全衛生委員会（月１回）：労働者の危険や健康障害を予防する

③事故委員会（月１回）：ヒヤリハット事例も含めた事故予防・再発防止策の検討
④褥瘡防止委員会（月１回）：褥瘡の予防・再発防止策の検討
⑤防災委員会（月１回）：施設内の防火管理に対することや防災対策の検討
⑥行事委員会（年５回）：施設行事の立案・実行
⑦感染衛生管理委員会（３カ月１回）：新型コロナウイルス、ノロウイルスやインフルエンザ、食中毒等の感染症予防及びまん延防止に関する啓発、マニュアル見直し
⑧権利擁護虐待防止委員会（年２回）：権利擁護に関わる内容の検討

５．コストに関する取り組みについて

・施設の機器等の経年劣化に伴い、修理・買換えを法人とも相談しながら対応しました。
・節水機器を導入し、水道代を約97万円、ガス代約200万円を削減しました。
・おむつやパットの選定・使用方法について、おむつの必要性や適切なパッドの使用などを見直し、無駄をなくし、利用者に合ったものを提供しました。

６．事業の稼働について

・2025 年度の稼働率は９３．０２％でした。
・稼働率を維持できるよう待機者を確保し、退所時期と入所時期をコントロールできるようにしていきます。

７．利用実績

（１）利用者実績

区分	老健万葉の里
延利用者数	３３，２７５
年間稼働率	９３．０２％

（２）入退所状況（再入所を含む。）

区分	入所	退所			
		死亡	入院	在宅	他施設
男	11	2	3	4	2
女	42	7	21	8	8
計	53	9	24	12	10
		55			

（３）年齢別利用者数（2025 年度末現在）

	～64 歳	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 歳～	合計	平均年齢（歳）
男	0	0	1	2	3	3	6	15	86.4
女	0	0	3	3	8	23	38	75	89.6
計	0	0	4	5	11	26	44	90	89.0
%	0	0	4.4	5.6	12.2	28.9	48.9	100	－

（4）在籍期間別利用者数（2025 年度末現在）

	14 日以内	15 日～1 月	1～3 月	3～6 月	6 月～1 年	1～2 年	2 年以上	合計
男	1	1	3	2	1	4	3	15
女	0	4	3	7	10	22	29	75
計	1	5	6	9	11	26	32	90
%	1.1	5.6	6.6	10.0	12.2	28.9	35.6	100

（5）要介護度別利用者数（2025 年度末現在）

区分	老健万葉の里
要介護１	13
要介護２	23
要介護３	22
要介護４	26
要介護５	6
計	90
平均介護度	2.88

（6）認知度別利用者数（2025 年度末現在）

区分	老健万葉の里
Ⅲ未満	61
Ⅲ以上	29
計	90

（7）利用者の食事形態（2025 度末現在）

ア）主食形態

区分	普通	軟飯	全粥	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
計	20	24	40	4	0	2	90

イ）副食形態

区分	普通	きざみ	超きざみ	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
計	15	36	33	4	0	2	90

（8）利用者の生活状況（2025 年度末現在）

ア）食事

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
計	71	12	7	90

イ）移動

区分	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
計	2	28	38	22	90

ウ）入浴

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
計	2	65	23	90

エ）着脱

区分	自力	一部介助	全介助	計
計	26	41	23	90

オ）排泄

区分	自力	一部介助	全介助	計
計	29	37	24	90

カ）おむつ使用

区分	常時使用	夜間使用	計
計	19	24	43

（9）2025 度実施行事

行事実施月及び行事名等	
4 月	花見
5 月	端午の節句
6 月	七夕飾り作り
7 月	七夕
8 月	
9 月	秋祭り、敬老会
10 月	運動会
11 月	
12 月	クリスマス会、忘年会
1 月	
2 月	節分
3 月	ひなまつり
備考	いきいき活動サークル（月１回）、味わいサークル（月１回）

空Ｐ

2025年度　社会福祉法人寿泉会
万葉の里短期入所療養介護事業　実績報告書

１．2025 年度の事業活動について

2025 年度も 2024 年度と同様、新型コロナウイルス感染症によるキャンセル等の影響が見られております。例年のように営業活動を行った結果、2025 年度の新規利用者は 17 件（うちグループ 4 件)、昨年度は 19 件（うちグループ 6 件）と新規利用者数も少なく、単発利用にとどまり定期利用につながらず、目標値には到達しておりません。また、定期利用者の介護老人保健施設（老健）への入所も重なり、稼働率の低下につながったと考えられます。

２．サービス提供について

（１）機能訓練（リハビリテーション）について

利用者のニーズに合わせ、在宅や施設で生活できることを目標に、利用者の心身機能・希望に添ったリハビリプログラムを作成しております。日常生活が過ごしやすいよう環境調整を行っております。また、利用者の心身機能を評価しリハビリ実施計画書へ反映させ家族への情報提供も行いました。

（２）日中活動（アクティビティサービス）について

利用者の心身の状況や本人の意向を尊重しながら、季節を感じ楽しめる企画を立案し、日中活動や余暇活動を提供しました。

（３）認知症ケアについて

認知症の理解を深め、行動観察から利用者の「できること、わかること」に着目し、行動範囲の拡大と、ニーズを汲み取りサービスに反映し、提供に努めました。

（４）口腔・栄養管理について

利用者の嚥下機能の評価を行い、個々に応じた食事形態を提供しております。また、食に関する行事等を行い食欲増進につながる環境整備を行っています。褥瘡のある利用者には褥瘡委員会と協力・連携し、栄養補助食品の提供を行っています。便秘の改善および対策として水分補給の促しや食物繊維の強化、栄養補助食品の提供を行っています。

（５）感染症対策について

感染衛生管理委員会を月１回開催しており、委員会主催で事業所内にて感染症に係る取り決めの確認や研修を実施しました。

（６）事故抑止について

インシデント・アクシデント報告内容を整理し、チームで対策・防止策を検討し、また事故防止委員会でも事故を未然に防ぐために勉強会を開催しました。

３．行事の実施について

（１）施設全体行事

月	行事名
９月	秋祭り

（２）ユニット行事

月	行事名
４月	花見
５月	端午の節句
６月	七夕飾り作り
７月	七夕
９月	敬老会
１０月	運動会
１２月	忘年会
１月	
２月	節分
３月	ひなまつり

サークル活動（月２回）実施しています。

４．会議・研修等の開催

（１）会議

①運営会議（月１回）：管理者及び専門職の代表者の施設運営に関する会議

②ＣＳ・ＥＳ会議（月１回）：顧客満足・従業員満足に関する会議

③サービス担当者会議（月１回）：施設内での情報共有及び検討

④介護Ｌ・ＵＬ会議（月１回）：ユニットリーダー職以上の介護内容に関する会議

⑤介護会議（月１回）：事業所内の介護内容に関する会議

⑥看護会議（月１回）：事業所内の看護内容に関する会議

⑦入所前カンファレンス（随時）：各部署代表者による入所後のケアを確定

⑧インシデント・アクシデントカンファレンス（随時）：各チームメンバーでインシデント・アクシデントについて検証、対応策の個別検討

（２）研修

①感染症に係る研修（年２回）：感染症予防及びまん延防止のため

②コンプライアンス研修（年１回）：法令遵守のため

③事故防止に関する研修（年２回）：事故防止に向けての知識等の取得

④権利擁護（身体拘束・人権）に関する研修（年１回）：権利擁護に関する知識等の取得その他、生涯研修等、外部研修への参加も行っています。

（3）委員会

①身体拘束委員会（月/１回）：身体拘束に関わる内容の検討
②安全衛生委員会（月/１回）：労働者の危険や健康障害を予防する
③事故委員会（月/１回）：ヒヤリハット事例も含めた事故予防・再発防止策の検討
④褥瘡防止委員会（月/１回）：褥瘡の予防・再発防止策の検討
⑤防災委員会（月/１回）：施設内の防火管理に対することや防災対策の検討
⑥行事委員会（年/５回）：施設行事の立案・実行
⑦感染衛生管理委員会（３カ月/１回）：新型コロナウイルス、ノロウイルスやインフルエンザ、食中毒等の感染症予防及びまん延防止に関する啓発、マニュアル見直し
⑧権利擁護虐待防止委員会（年/２回）：権利擁護に関わる内容の検討

５．コストに関する取り組みについて

・施設の機器等の経年劣化による故障については、修理コスト等を検討し、買換えが妥当性等を勘案して判断を行いました。
・節水機器を導入し、水道代を約９７万円、ガス代を約２００万円削減しました。
・おむつやパットの選定・使用方法について、おむつの必要性、適切なパットの使用など無駄を無くし、利用者に合ったものを提供しました。

６．事業の稼働について

・2025 年度稼働率・・・78.46％
・新規利用者は増加しましたが単発利用で定期利用に繋がらず目標値に到達しておりません。

７．利用実績

（1）利用者実績

区分	万葉の里 短期療養介護事業所
延利用者数	572
年間稼働率	78.46％

（2）年齢別利用者数（2025 年度末現在）

区分	64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均年齢(歳)
男	1	0	0	1	1	0	1	4	79.0
女	0	0	0	0	1	2	3	6	91.3
計	1	0	0	1	2	2	4	10	86.4
%	10	0	0	10	20	20	40	100	―

（3）要介護度別延べ利用者数（2025 年度末現在）

区分	万葉の里 短期療養介護事業所（実人数）	延べ利用者数
要支援１	0	0
要支援２	0	0
要介護１	1	36

要介護２	2	93
要介護３	1	216
要介護４	3	113
要介護５	3	114
計	10	572
平均介護度	3.4	

（４）介護度別世帯状況（2025 年度末現在）

区　　分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援１	0	0	0	0
要支援２	0	0	0	0
要介護１	0	0	1	0
要介護２	0	0	0	2
要介護３	0	0	1	0
要介護４	0	1	2	0
要介護５	0	2	1	0

（５）認知度別利用者数（2025 年度末現在）

区分	万葉の里 短期療養介護事業所
Ⅲ未満	9
Ⅲ以上	1
計	10

2025年度　社会福祉法人寿泉会
万葉の里　居宅介護支援事業所事業　実績報告書

１．2025 年度の事業活動について

・地域包括支援センター、医療機関への営業活動を図りながら、利用者確保に努めたことで、要介護者の利用者数については目標に対して順調に推移しました。介護予防についても同様に地域包括支援センターへ営業活動をはかり今後も一人ひとりの利用者を大切に支援することで、地域からの信頼を今まで以上に構築し、利用者紹介につなげていきます。

２．サービス提供について

（1）感染症対策について

・手洗い消毒・マスク着用、不要不急の外出控えの徹底を図りました。
・利用者宅・入所施設・事業所への訪問は必要最低限となるよう調整しました。
・感染症予防対策等の研修会に参加しました。

（2）事故抑止について

・利用者宅、事業所等への訪問の際は、余裕をもって安全運転に努めました。
・乗車前のタイヤ、車両周辺キズ等の自主点検を行いました。
・エンジンの異音などの異常に気付いた際は、車両担当者への速やかに報告するよう心がけました。

３．会議・研修等の開催

（1）会議

・月１回の居宅会議を開催し、情報共有や課題解決等を行いました。

（2）研修

・万葉の里居宅介護支援事業所主催の、地域住民や理学療法士等による勉強会および交流会（対面）
・津一志地区包括支援センター研修会および津在宅療養支援センター研修会に参加（対面）
・介護支援専門員協会、社会福祉協議会、三重県および各種団体が主催する、認知症、制度改正、地域支援事業、ケアマネジメント、加算等に関する勉強会・研修会に参加（オンライン）。

４．コストに関する取り組みについて

・同一地区の利用者宅への訪問は効率よく行えるよう調整を心がけました。
・職員の乱暴な取り扱いや不注意等による破損を防止し、使用や操作方法、周辺環境の確認を行ったうえで、破損理由等を分析・共有し再発予防に努めました。
・ペーパーレス化および請求誤り防止の取り組みとしてグループ内の各提供事業所が直接実績入力を行っている。
・業務スケジュールを立てて就業時間内で終えるようにし、時間外勤務の削減を図りました。

５．事業の稼働について

・地域包括支援センターを訪問し、新規利用者の確保に努めると共に、地域住民との勉強会および交流会を開催し地域とのつながりを構築しました。また、グループ内事業所と更なる連携を

図り相談窓口として機能し、相乗効果が生まれるよう努めました。

６．利用実績

（１）利用者実績

区分＼月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計	人数(%)	前年比(%)
予防	支援１	2	2	5	4	4	4	4	5	5	4	4	4	47	7	188.0
	支援２	4	4	5	7	6	6	6	6	6	6	5	5	66	10	98.5
介護	介護１	14	14	13	15	15	15	16	16	16	11	12	13	170	27	78.3
	介護２	17	15	15	14	16	16	17	15	14	10	10	8	167	27	109.1
	介護３	8	8	8	9	11	10	10	9	10	7	6	6	102	16	118.6
	介護４	2	2	4	3	4	3	5	5	5	3	4	3	43	7	286.0
	介護５	3	3	5	3	3	3	3	3	2	2	2	2	34	5	100
合　　計		50	48	55	55	59	57	61	59	58	43	43	41	629	100	105.3

（２）年齢別利用者数（2025 年度末現在）

	64 歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 歳以上	合計	平均年齢(歳)
男	1	2	0	1	5	1	5	15	82.6
女	0	1	0	1	6	6	12	26	87.2
計	1	3	0	2	11	7	17	41	84.9
%	2.4	7.3	0	4.9	26.8	17.1	41.5	100	

（３）介護度別世帯状況（2025 年度末現在）

区　　分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援１	2	0	1	1
要支援２	3	2	1	0
要介護１	3	3	1	4
要介護２	2	2	0	5
要介護３	1	2	0	3
要介護４	1	1	0	1
要介護５	0	0	0	2

（４）ご契約状況等（2025 年度末現在）

契約理由		解約理由			継続中
		ADL 改善	入院	その他	
退院・退所支援	4	0	1	8	0
認知症支援	4	0	0	0	0
看取り	0	0	0	3	0

その他	9	1	0	13	0
合計	17	1	1	24	0

（５）年間の研修・会議開催状況（2025 年度）

実施月及び研修・会議等	
4 月	・なし
5 月	・「震災、その日に備えて」：合同勉強会 ・「ケアプランデータ連携システム直前導入セミナー」：厚生労働省 ・災害時情報共有システム災害想定訓練 ・会議：身体拘束廃止委員会
6 月	・「事例も用いて家計相談支援を学ぼう」研修：一志包括 ・身体拘束廃止委員会
7 月	・「実際にあったカスタマーハラスメントの対応」：日本福祉用具供給協会 ・「事例検討」：こもれび勉強会 ・「退院支援と急変時の入院受け入れ」：多職種連携 ・会議：身体拘束廃止委員会
8 月	・研修　なし ・会議：身体拘束廃止委員会
9 月	・「食事と健康でいつまでも健康な生活を」高野シニアクラブ健康教室 ・会議：身体拘束廃止委員会
10 月	・研修　なし ・会議：身体拘束廃止委員会
11 月	・「転倒を予防していつまでも元気に」高野シニアクラブ健康教室 ・「ICT 等を活用したケアマネジメント業務の負担軽減に向けて」：第２回合同研修会 ・「年金制度の理解を深めよう」研修：一志包括： ・合同勉強会：あいけあ事業所 ・会議：身体拘束廃止委員会
12 月	・研修　なし ・会議：身体拘束廃止委員会
1 月	・「業務継続計画（BCP）フォローアップ研修」：三重県社会福祉協議会 ・「BPSD トータルケア」：多職種協働研修会 ・会議：身体拘束廃止委員会
2 月	・高野シニアクラブ健康教室 ・会議：身体拘束廃止委員会
3 月	・防災訓練：万葉の里 ・「ケアプランデータの概要と今後について」：研修（リモート） ・会議：身体拘束廃止委員会 ・会議：感染症対策委員会

空Ｐ

2025年度　社会福祉法人寿泉会
万葉の里通所リハビリ事業　実績報告書

１．2025 年度の事業活動について

利用者・家族に対して、在宅生活上のニーズを確認し、介護および療養上のアドバイスや身体機能の維持・向上に向けた日常生活上の助言を、理解しやすいよう懇切丁寧に行いました。質の高いサービスが提供できるよう他職種の方々と情報共有を行い、運動やリハビリテーションにより利用者の在宅生活が維持・継続できるよう身体機能の維持・向上を図るように取り組みました。

また、ご協力いただける利用者と作品作りを行いました。ものづくりを通して利用者との関わりが持てることを大切に運営しました。

２．サービス提供について

（１）機能訓練（リハビリテーション）について

利用者の身体機能・ニーズに合わせ、「活動と参加」を中心としたリハビリテーションを実施しました。機能維持を目標とするグループ（リハビリマネジメント加算の算定なし）は機能訓練を中心に運動を実施し、具体的な生活目標(買い物や畑仕事・旅行等)のあるグループ(リハビリマネージメント加算イ算定)にはリハビリスタッフが現場に直接同行し、評価・目標達成のための動作訓練を実施・定期的な話し合いの場(リハビリ会議)を設け、より良いサービスが提供出来るよう努めました。ただ、困っている事が無いと言われ目標設定が曖昧となる利用者もいることから、生活の様子をより詳しく聞き取る事により、困っていても気付いていない状況がないかの確認や早期に機能維持グループへの移行等を検討していく必要があると考えています。また、リハビリマネージメント加算算定の有無に関わらず、歩行速度等の身体能力測定を行い、身体機能が向上・低下しているかの確認を定期的に行いました。

（２）日中活動（アクティビティサービス）について

計算問題等の机上課題・折り紙といった項目を増やし、より多くの利用者に取り組んでいただきました。また、男性の利用者にも計算問題や点繋ぎ等はご好評いただいており、内内容の向上を図りながら継続して提供させて頂きました。問題が苦手な利用者については、塗り絵や折り紙といった別のものを選択できるようにしました。JOYSOUND の映像や音楽を取り入れ、体操や機能訓練を中心としたレクリエーション、農作業や屋外歩行を行い楽しんでいただくことが出来ました。

（３）認知症ケアについて

計算問題等の机上課題や職員からの声かけによる外的刺激、午後のレクリエーションにおいて問題形式や JOYSOUND の映像・音楽とともに楽しむ要素を取り入れ、脳の活性化を通じた認知症進行予防に取り組みました。その他、定期的に MMSE・HDS-R の認知機能検査を実施し、担当者会議や照会用紙・リハビリ会議にて他事業所にも共有し、連携を図りながら認知症ケアに努めました。

（４）口腔・栄養管理について

加算としては算定しておりませんが、希望者および口腔内に残渣物が見られる利用者は歯ブラシ等を持参していただき口腔ケアを実施しました。自立で行えない利用者については、職員が介助にて実施しました。栄養管理および利用者の摂取状況の把握を行い、家族・他事業所と連携し、摂取量に応じて栄養補助食品等の提案を行い、本人・家族の意向に沿って栄養バランスが乱れないように努めました。また、管理栄養士とともに食事形態の設定後に他事業所にお伝えし、連携することにより可能な限り経口から栄養が摂取できるように環境設定を行いました。又、利用者の状態の観察を行い、変化に気付き迅速に評価・検討を行い、利用者に負担にならないように努めました。

（5）感染症対策について

委員会や定期会議にて、感染に対する研修・発表、新型コロナウイルス・インフルエンザやノロウイルスといった感染症に対してマスク・フェイスシールドの着用、手指消毒の徹底、嘔吐物処理セットの作成等の対策をしました。今年度は昨年度同様インフルエンザの感染拡大も防ぐ事ができました。新型コロナウィルスへの対策に関しても、理事長等の指示のもと、各職員への周知・利用者へも文書にて注意を呼び掛け、マスク着用のお願い・手指や車両等の消毒の徹底・県外への往来の有無等の行動歴の把握・お迎え時に検温等を行いました。

（6）事故抑止について

委員会に参加し、事故内容の共有及び対策方法の再確認・セラピストによる動作の評価を行うことにより、再発防止につながりました。また、年度末には年間の統計を作成し、事故が多発している時間帯や事故内容等を把握することにより、次年度の対策がより取りやすく職員間で注意点が共有できました。ハード面に起因する事故も発生しており、次年度の課題として検討いたします。

3．行事の実施について

（1）全体行事

・各月行事について、各担当者を配置し企画・運営。

［行事］

4月　花見
5月　端午の節句
7月　七夕行事
8月　夏祭り行事
9月　敬老会
１０月　運動会
１１月　芋掘り、文化祭
１２月　忘年会、クリスマス会
2月　節分
3月　ひな祭り

・季節を感じることができる工作等をしていただき、その完成した作品と写真撮影を行い、利用者同士で生き生きした会話につながるきっかけとなるよう努めました。

4．会議・研修等の開催

（1）会議

・運営会議（1回/月）

管理者および専門職の代表者による施設運営に関する会議

・CS・ES 会議（1回/月）

顧客満足および従業員満足に関する会議

・デイケア運営会議（1回/月）

上記会議での内容報告や、デイケアでの行事およびサービスの方向性について議論。利用者へのサービス課題について解決策を検討

・夕礼（毎日利用者送迎終了後）

当日の利用者の身体状況、担当者会議・リハビリ会議等の内容の報告、新規調査の報告等についてリハビリ職員とともに検討（業務改善・情報共有・症例検討）

（2）研修

・感染症に係る研修（対象：全職員・年 2 回）：感染症予防及びまん延防止のため

・コンプライアンス研修（対象：全職員・年 1 回）：法令遵守のため

・権利擁護（身体拘束・人権）に関する研修（対象：全職員・年 1 回）：利用者の権利擁護のため

・事故防止に係る研修（対象：全職員・年 2 回）：事故防止に向けた知識等の習得

・医福塾（対象：全職員・随時）：職員全体のスキルアップ

（3）委員会

施設委員会である行事・感染・事故防止各委員会に、それぞれ担当者（通所リハビリ職員）が参加し、施設全体の課題に対する検討・解決および対策に取り組みました。

5．コストに関する取り組みについて

・身近である光熱水費や物品等のコスト管理については、単に経費を削減するだけでなく、限られた財源の中で、無駄を省くことや費用対効果を高める視点を持ち、必要であるかどうかを検討した上で、購入・修繕の起案を行いました。

・職員の乱暴な取り扱いや不注意等による破損をなくし、使用や操作方法、周辺環境の確認を行った上で、破損理由などを分析・共有し再発防止に努めました。

6．事業の稼働について

年度末登録者数５６名(予防１名・介護５５名)

１日平均人数１８．４４名・稼働率４６．１１％

7．利用実績

（1）利用者実績

開所日数		延べ 利用者数	平均 利用者数	登録者数（予防）		平均 介護度
				男性（予）	女性（予）	
				合計		
4月	３０日	４９８人	１６．６人／	３０（０）人	３３（１）人	２．２

			日	６３（１）人	
５月	２７日	４７６人	１７．６人／日	３０（０）人 ３１（１）人 ６１（１）人	２．２
６月	２５日	４４２人	１７．７人／日	３１（１）人 ２７（１）人 ５８（２）人	２．２
７月	２７日	４８８人	１８．１人／日	３１（１）人 ２８（１）人 ５９（２）人	２．２
８月	２６日	４８７人	１８．７人／日	３２（１）人 ２９（１）人 ６１（２）人	２．３
９月	２６日	４９４人	１９．０人／日	３５（１）人 ３０（１）人 ６５（２）人	２．２
10 月	２７日	５３８人	１９．９人／日	３５（１）人 ２５（１）人 ６０（２）人	２．３
11 月	２５日	４９０人	１９．６人／日	３５（０）人 ２４（１）人 ５９（１）人	２．２
12 月	２５日	５０６人	２０．２人／日	３５（０）人 ２３（０）人 ５８（０）人	２．３
１月	２５日	４４１人	１７．６人／日	２８（０）人 ３３（１）人 ６１（１）人	２．３
２月	２４日	４４３人	１８．５人／日	３３（０）人 ２２（１）人 ５９（１）人	２．２
３月	２６日	４７１人	１８．１人／日	３３（０）人 ２３（１）人 ５６（１）人	２．２
年度合計	合計 ３１３日	延べ ５７７４人	年間平均 １８．４７人／日	（３８８）人 （３２８）人 （７１６）人	平均 ２．２

（２）年齢別利用者数（2025 年度末現在）

	～64 歳	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 歳～	合計	平均年齢(歳)
男	4	2	3	5	5	6	7	32	79.6
女	0	0	1	2	6	9	4	22	85.6
計	4	2	4	7	11	15	11	54	82.1
%	7.4%	3.7%	7.4%	13.0%	20.4%	27.8%	20.4%		－

（３）介護度別世帯状況（2025 年度末現在）

区　　分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援１	0	0	0	1
要支援２	0	0	0	0
要介護１	4	4	2	7
要介護２	0	7	3	6

《万葉の里通所》

要介護 3	0	3	2	5
要介護 4	0	0	0	2
要介護 5	0	0	0	4

（4）利用者の生活状況（2025 年度末現在）

食事	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	50	2	2	54	
移動	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
	8	30	9	7	54
入浴	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	15	33	6	54	
着脱	自力	一部介助	全介助	計	
	17	32	5	54	
排泄	自力	一部介助	全介助	計	
	25	24	5	54	
おむつ使用	常時使用	夜間使用	計		
	1	4	5		

（5）年間の行事等（2025 年度）

行事実施月及び行事名等	
4 月	花見
5 月	鯉のぼり・鯉のぼり飾り
6 月	
7 月	七夕イベント
8 月	夏祭り
9 月	敬老の日イベント
10 月	運動会・さつまいも掘り
11 月	地域文化祭へ作品展示
12 月	忘年会・クリスマス会
1 月	年始行事・絵馬作成
2 月	節分
3 月	ひな祭り・ひな人形飾り作り・
備考	・お誕生日会…随時 ・季節に合わせた作品作り…陶芸作品・折り紙を使用しての桜やひまわり作り等

空Ｐ

2025年度　社会福祉法人寿泉会
万葉の里訪問リハビリテーション事業　実績報告書

1．2025 年度の事業活動について

2025 年度は昨年度からの 1 台稼働への調整から開始しました。美杉方面を午前、津白山一志方面を午後に予定できるよう調整を行い、7 月からの 1 台稼働をスムーズに進められるよう努めました。また、榊原方面は終了では無くしおりの里訪問リハビリテーション事業所に引き継いでいただくことで、利用者の訪問リハビリ継続と売上を維持できるよう配慮しました。

7 月の 1 台稼働へ変更後、入院や施設入所等で稼働率が徐々に低下し、12 月時点で 35.4%（2 台稼働での予算のため､稼働率は 1/2)まで低下しました｡ただ､2 月に新規依頼が 3 件あり 42.86%まで改善しております。3 月下旬に新規依頼が 1 名あり、これにより 4 月以降 1 台稼働分の枠は全て埋まる事になりました。4 月以降は振替等により稼働率が低下しないよう努めていきます。

2．サービス提供について

(1) リハビリテーションについて

利用者の身体機能に合わせて「活動と参加」を積極的に促し、ベッドでの運動から自宅内・屋外での動作（畑作業等を含む、必要かつ希望される動作）を中心に運動を実施しています。ご希望があればよく利用される施設（スーパーや床屋等）での動作評価もケアプランに挙げていただき、実際の場所で動作確認を行うこともあります。次のステップに進むための下準備（体力つくり等）をしっかりと行っていき、目標達成（卒業）に向けて取り組みました。また、2 名体制を取ることによる提供内容のばらつきを防止するために､介入前後での情報共有やアプローチの統一、ミーティングの実施等を行っておりました。

(2) 日中活動（アクティビティサービス）について

なし

(3) 認知症ケアについて

なし

(4) 口腔・栄養管理について

なし

(5) 感染症対策について

スタッフの咳等気になる状況であればマスクを使用し、利用者ごとに手洗いや手指消毒を実施しております。職員間、介護支援専門員との情報共有に努め、感感染対策の方法について判断に迷う際は、その都度、上司に報告・相談し指示を受けていました。体温計測については非接触型体温計を使用しております。

また、ノロウイルス等の嘔吐を伴う感染症については、感染対策キットを作成して訪問用公用車に積んでおり、利用者宅で嘔吐等があればキットを使用するよう周知しています。

(6) 事故抑止について

無理な運転が発生しないよう過密なスケジュールを避け、余裕を持ったスケジュール管理を行うように努めました。今まで美杉・白山方面は 6 件/日で対応し 17 時頃の帰設としておりましたが、午後からの介入を津一志方面に変更した為、7 件／日実施できるように調整しております。

また、施設からの出発・帰設の際にアルコールチェックを行うことや急発進・急停車とならないよう車間距離を十分に確保することなど、安全運転を心がけております。

3. 行事の実施について

(1) 施設全体行事

なし

(2) ユニット行事

なし

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

①リハビリミーティング（毎月第 1 月曜日）

・万葉の里入所・デイ・訪問リハの業務改善や対応の難しい症例への検討会等

・翌日開催の CS 会議に出す議案確認

②訪問リハビリミーティング（毎月リハビリミーティングまでに実施）

・万葉の里訪問リハ事業の業務改善や対応の難しい症例への検討会等

・売り上げを向上させる為にどのようにしていくかの客観的な意見を聞けるように、事業課長へ参加依頼

(2) 研修

各自県士会等参加

(3) 委員会

なし

5. コストに関する取り組みについて

訪問リハビリサービスを永続的に利用してもらうのではなく、目標達成し卒業していただくことを目的としておりますが、可能な範囲でサービス終了後に空きが生じないよう調整を行っていました。

入院による利用枠の確保期間については、利用枠を確保しておく期間の設定や介護支援専門員との連絡を密に取っておりましたが、長期入院で終了の判断が難しい利用者に関しては、新規依頼があった際には、新規依頼を優先させていただく旨を連絡し了承を得るようにしていました。

ガソリン代を節約するために、効率良く移動ができるようルート調整を行いました。

6. 事業の稼働について

2025 年度稼働車両 2 台（実働 1 台)、実績 3286 件（20 分/回、最大算定可能件数 7168 件、平均稼働率 45.3%）

7. 利用実績データ（訪問リハビリ）

(1) 利用者実績

訪問リハ	稼働日数	登録者数 （予防）	延べ訪問件数	平均訪問件数 （件／日）	平均介護度
4 月	22	41（11）	371	16.9	1.8
5 月	22	36（11）	368	16.7	1.8
6 月	21	35（11）	353	16.8	1.8
7 月	23	36（10）	276	12.0	1.9
8 月	20	34（10）	246	12.3	1.9
9 月	22	32（9）	254	11.5	2.0
10 月	23	31（9）	254	11.0	1.8
11 月	20	30（9）	220	11.0	1.8
12 月	21	27（9）	236	11.2	1.9
1 月	20	26（9）	220	11.0	1.7
2 月	20	27（10）	240	12.0	1.6
3 月	22	28（10）	248	11.3	1.7
年間	256 日	383 名 （118 名）	年間延べ件数 3286 件	平均 12.8 件／日	平均 1.8

2）年齢別利用者数（2025 年度末現在）

	64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均年齢 （歳）
男	2	0	1	2	2	3	3	13	79.0
女	0	0	0	2	4	6	3	15	85.3
計	2	0	1	4	6	9	6	28	82.4
%	7%	0%	4%	14%	21%	32%	21%		

(3) 介護度別世帯状況（2025 年度末現在）

区　　分	独居	日中独居	老々世帯	同居	施設等
要支援１	1	0	1	0	0
要支援２	3	0	2	2	0
要介護 1	0	0	3	1	0
要介護 2	0	0	2	2	0
要介護 3	1	0	3	1	0
要介護 4	0	0	1	1	0
要介護 5	0	0	0	0	1

(4) ご契約状況等（2025 年度）

契約理由		解約理由			継続中
		ADL 改善	入院	その他	
退院支援	2	1	2	2	2
認知症支援	0	0	0	0	0
看取り	0	0	0	0	0

《万葉の里訪問リハ》

ADL 低下	3	0	1	12	3
合計	5	1	3	14	5

＊2025 年度新規契約　5 件、終了　18 件（以前より利用している利用者含む）

(5) 年間の研修・会議開催状況（2025 年度）

実施月及び研修・会議等	
4 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング
5 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング
6 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング
7 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング
8 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング
9 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング
10 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング
11 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング
12 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング
1 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング
2 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング
3 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング